

パキスタン回教共和国  
看護教育プロジェクト  
事前調査団報告書  
(1986. 12. 13. ~22)

昭和62年7月

国際協力事業団

医協

JR

87 - 33

国際協力事業団	
受入 月日 '88.2.5	117
	92.9
登録No. 17113	MCF

JICA LIBRARY



1040998[5]



## 序 文

パキスタン回教共和国は、第6次5ヶ年計画（1983年～1988年）において、保健医療分野を、教育文化と並んで重点施策の一つとして位置付け、中でも、当該分野の人材開発には高いプライオリティーを付している。

パキスタン国の看護婦の実情をみると実働看護婦数は6,000人であり、同医師数20,000人と比べ逆転現象を呈しており、看護婦の絶対数の確保と、近代的な看護要員供給の観点から、看護教育の充実が急務となっている。

このため、パ国政府は、看護教員及び専門看護婦の養成を図るため、わが国に対し、無償資金協力による看護大学の施設建設に引き続き、卒後看護教育にかかる技術協力を要請してきた。

本看護大学は、首都イスラマバードのみならず、パ国全土の総合医学センターとして計画されている“パキスタン医科学研究庁（Pakistan Institute of Medical Science）”の一機関を形成していることから、日本側は本看護大学への技術協力は、すでに実施に移されている“イスラマバード小児病院プロジェクト”と併せ相乗効果をもたらすものと判断し、協力計画を協議するため、昭和61年12月事前調査団を派遣した。

本報告書は、上記調査団が現地において実施した調査内容、協議内容を取りまとめたものである。また、巻末には、事前調査団派遣前に、当国を訪れ、計画策定の準備作業を行った専門家チームの報告書を収録した。

最後に、調査団、専門家チーム各位、及びその所属先に厚くお礼申し上げるとともに、今後の協力についてもご支援賜わるようお願い申し上げます。

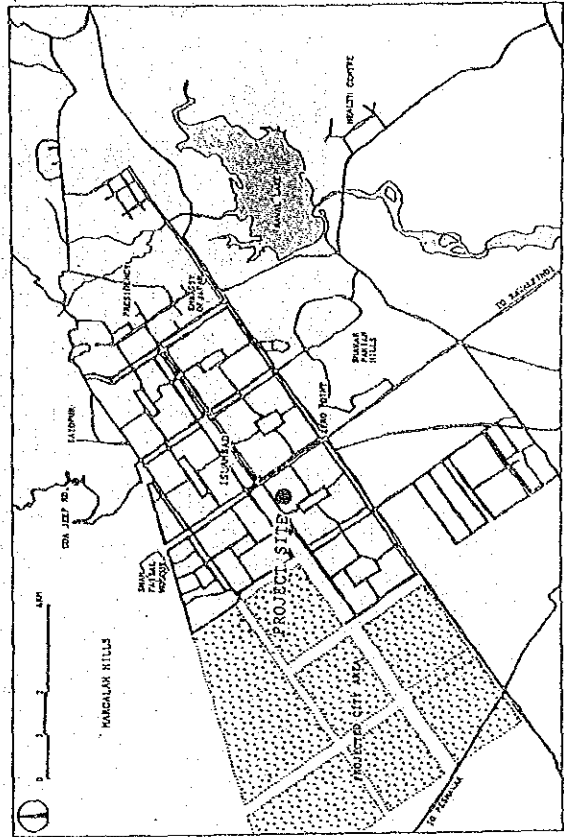
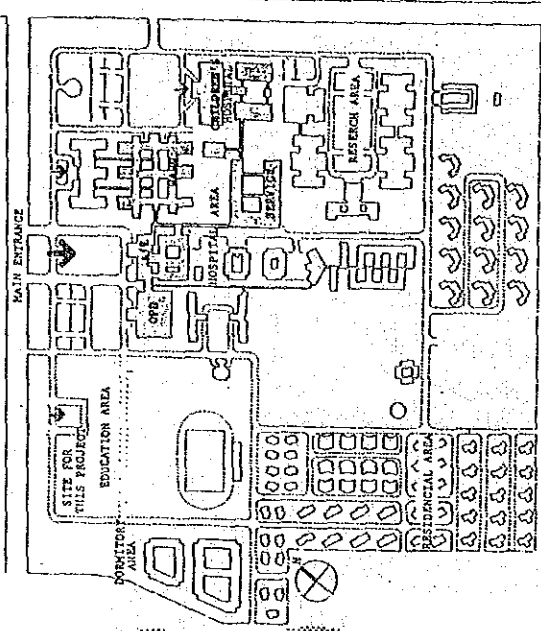
昭和62年7月

国際協力事業団

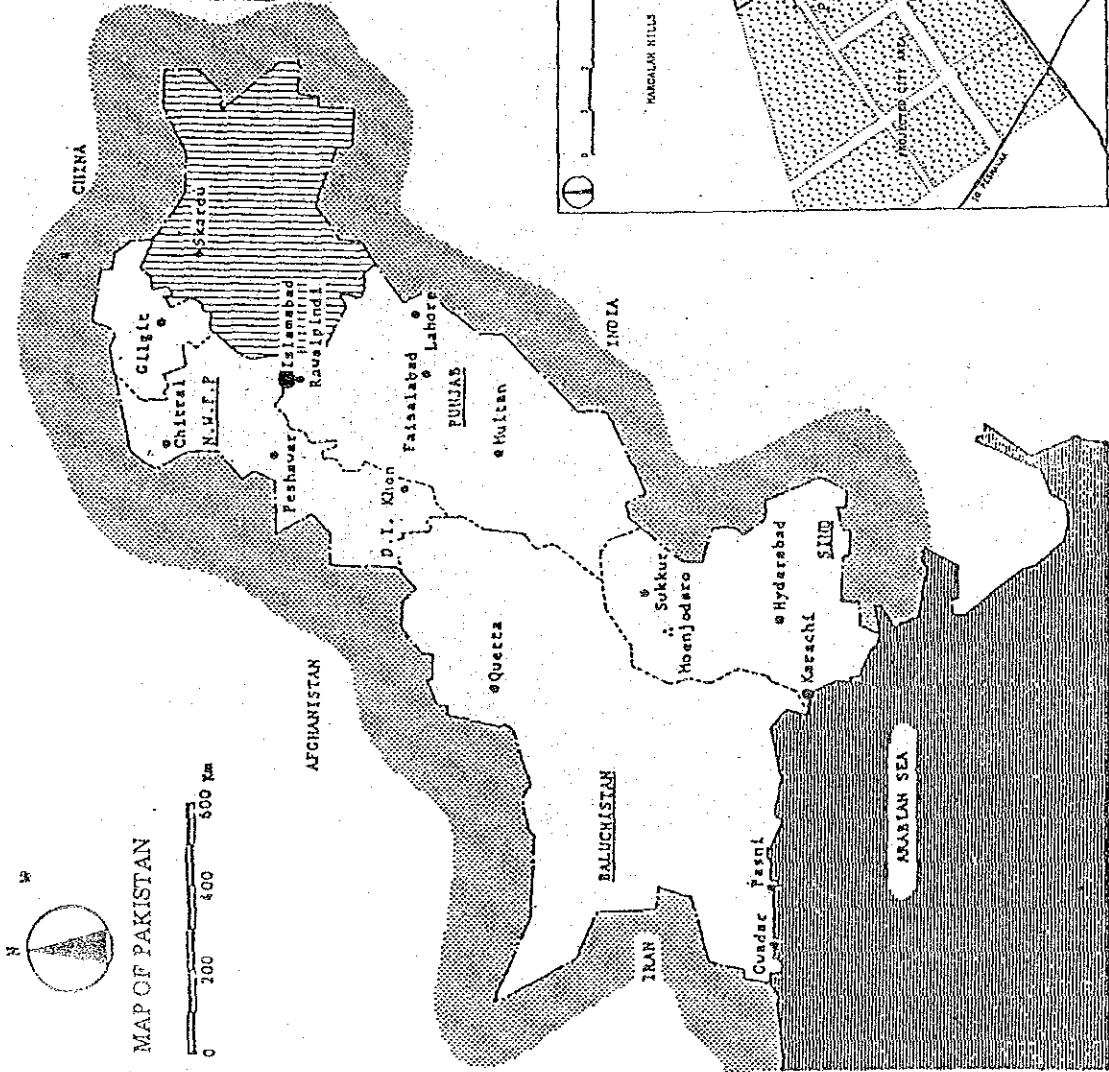
理事 末永昌介



IHC MASTER PLAN



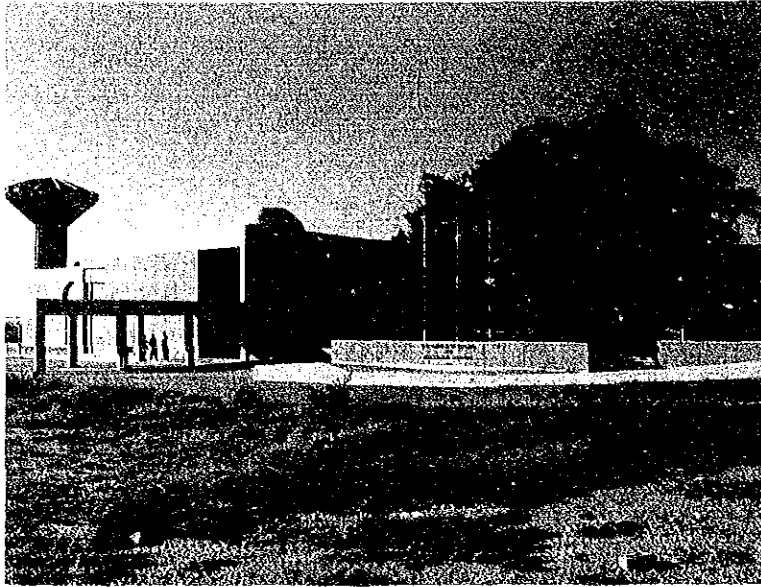
SITE LOCATION PLAN



MAP OF PAKISTAN





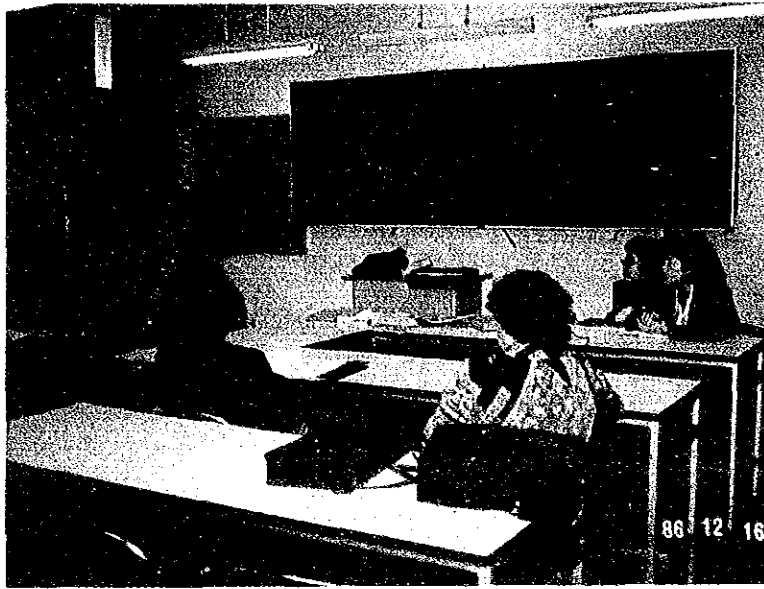


イスラマバート看護大学，医療技術者養成学校  
(CNPI)

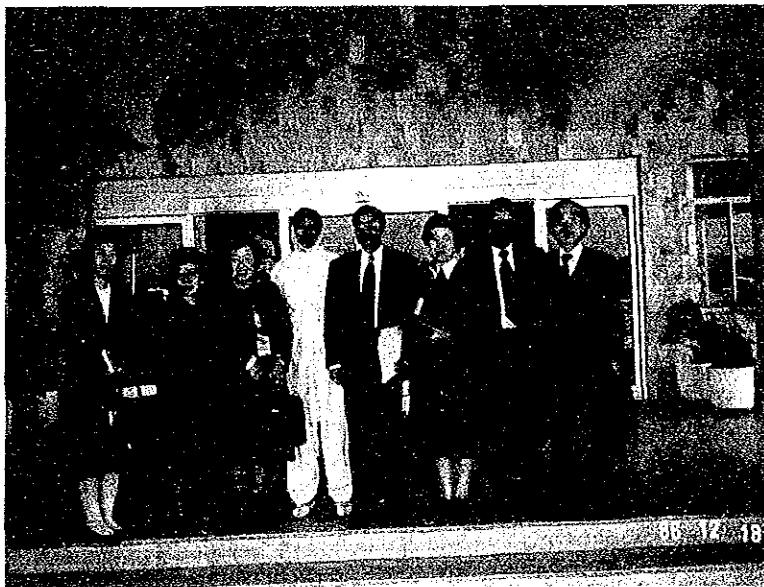


事前調査の結果がとりまとめられ，伊藤団長と  
Akram 医科学研究庁総長の間でミニッツが署名  
された





Anis 保健省看護担当アドバイザー  
と意見交換をする調査団



イスラマバード小児病院を視察した調査団  
右より4人目はNaubahar C. N. P. I.  
プロジェクトダイレクター



# 目 次

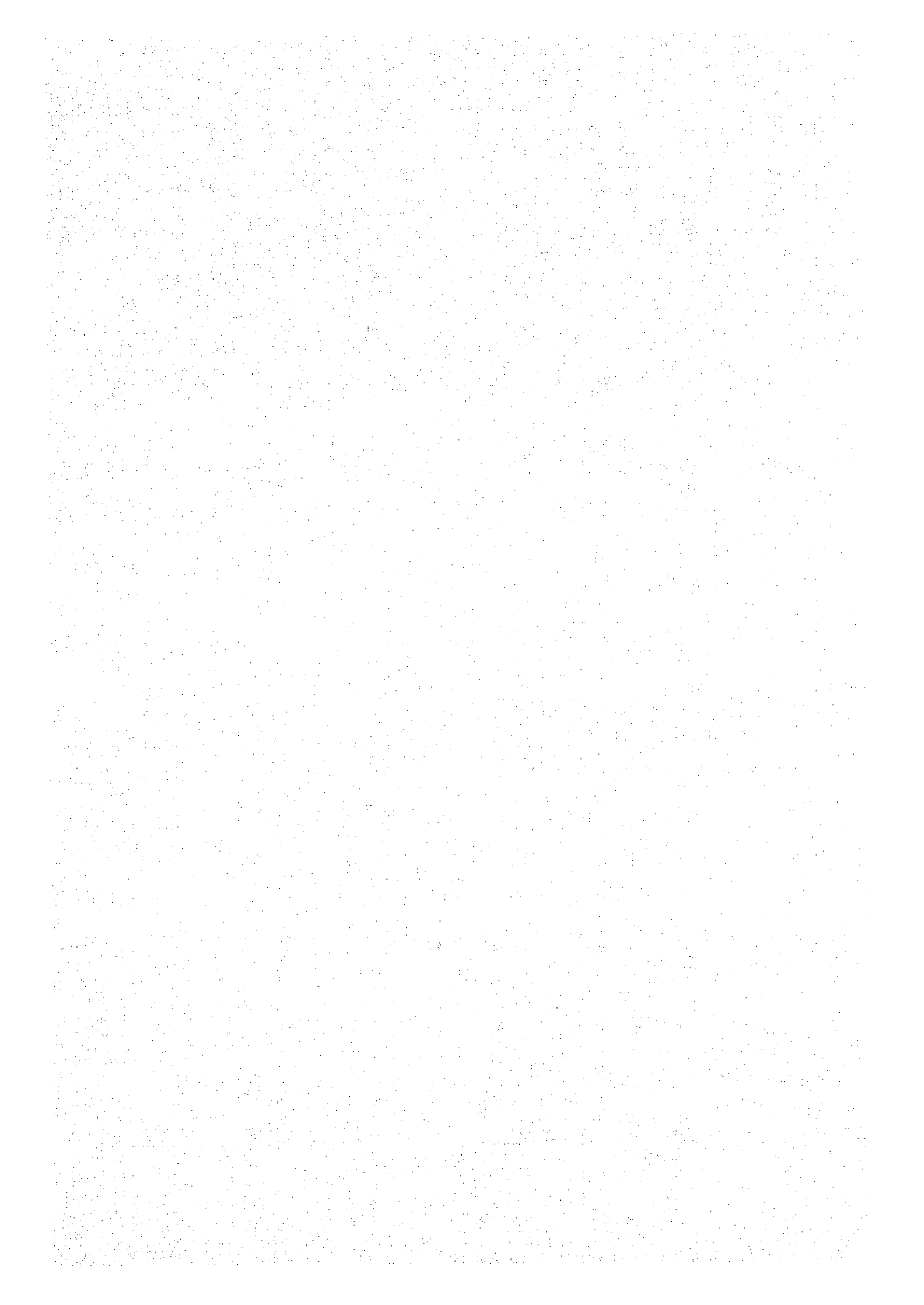
序 文	
関連地図, 図面	
写 真	
第1部 事前調査団報告	
1. 事前調査団派遣概要	1
1-1 調査団派遣の経緯	1
1-2 " の目的と任務	2
1-3 " の構成	2
1-4 調査日程及び内容概略	3
1-5 主要面談者	8
2. 報告の要約	9
2-1 要 約	9
2-2 ミ ニ ッ ツ	11
3. 要請の背景と経緯	19
4. 開発計画の現状と関連計画	20
4-1 関連協力計画について	20
5. 協力分野の現状と問題点	23
6. 要 請 の 内 容	24
7. 日本の他の協力との関連	33
8. 第三国の協力概要	36
9. プロジェクトの実施体制	42
9-1 パキスタン医科学研究庁 (PIMS)	42
9-2 パキスタン, イスラマバード看護大学 (College of Nursing, Islamabad = CN)	45
9-3 予 算	48
9-4 カウンターパートの配置計画	51
10. プロジェクト協力の基本計画	52
10-1 協 力 の 方 針	52
10-2 協力の範囲及び内容	52
10-3 協力部門別計画	52

10 - 4	専門家派遣計画	53
10 - 5	研修員受入計画	53
10 - 6	資機材供与計画	53
付 表	協力計画の概要(表)	54
11.	協力実施にあたっての留意事項(伊藤, 志摩)	56
12.	提 言	58
○付 属 資 料		
(1)	イスラマバードの生活事情	61
(2)	パキスタン(イスラマバード)赴任者用情報	65
第2部	コンタクトチーム調査報告	113
第3部	長期調査員報告	131

第 1 部

事前調査団報告

(61. 6. 30 ~ 7. 21)





## 1. 事前調査団派遣概要

### 1-1 調査団派遣の経緯

日本政府の無償資金協力によって建設されているパキスタン国看護婦・医療技術者養成学校 = Colledge of Nursing & Paramedical Institute. (第1期学校本体 61年3月完成, 第2期 61年10月完成。総額19.6億円)に対する技術協力の要請を確認するため, 61年3月, 日比野路子氏を団長とする専門家チームが派遣された。

同チームは, 3月17日から26日の派遣期間内で, パ側関係者との協議及び視察を通じ, パ側は, 日本政府に対し5年間のプロジェクトタイプの技術協力を要請する意向であること及び協力の対象レベルとしては, 看護大学における卒業後教育的を絞りたい意向であること等を確認し, ミニッツにとりまとめ帰国した。

さらに, 61年6月30日から7月21日まで, 日本側は技術協力計画の枠組み検討のために必要とされる, 当該国の看護学校の実態, 看護界自体が抱えている問題, 具体的な協力項目の把握等の為に, 日比野路子氏及び田代順子氏からなる長期調査員を派遣した。

この間, 7月9日付で, パ国政府は日本政府に対し, 同国財政・経済省を通じ, 技術協力プロジェクトの要請を行った。

また, 日比野, 田代調査員はカラチ, ラホール, ベンジャール, ケッタ地区で, 前記調査を実施し, 報告をとりまとめ先方政府に提出するとともに, パ側の具体的要請内容(非公式メモ)を入手し帰国した。

9月18日の両調査員の報告会の後, 10月6日, 本件プロジェクトの対処方針についての打合せがなされ, 関係者の協議の結果, 以下の方向が打出された。

- ① 先方の実施体制の整備等残された課題は有るが, 早い時期のプロジェクトスタートを目指す。
- ② その為には, 61年12月事前調査団, 62年度実施協議調査団を派遣する。
- ③ 専門家派遣等国内協力機関の理解を得ることに力を注ぐ。
- ④ 協力対象レベルは卒業後教育とする。
- ⑤ 協力内容としては学校運営・管理への助言と専門看護婦養成コースに係るカリキュラム開発, 教育技法および教材開発に係る技術指導等。
- ⑥ 実習と座学の比率を改善し, 6:4程度にもってゆく。
- ⑦ 協力期間はとりあえず3年。
- ⑧ 基礎看護教員養成は, 専門看護婦養成の結果の波及効果に期待する。
- ⑨ 専門家派遣計画は, ⑤の分野で約4名程度とし, 調整員1名を別途派遣することを検討する。(以上長期, 短期は今後の協力計画に沿って考える。)

⑩ C/P枠を初年度に多く確保し、年毎に漸減する方式も検討する。

### 1-2 調査団派遣の目的と任務

- (1) これまで日本側で検討された協力計画(案)をバ側に提示し、協議・調整を行い、R/Dのマスタープランの原案を策定する。(専門家、研修員、機材)
- (2) バ側のプロジェクト実施体制を具体的(属人的)に把握し、保健省のみならず財政・経済省の確認を得る。
- (3) プロジェクト開始までの大方のスケジュールを協議し、それまでにバ側が整えるべき事項を指摘し、書面にて申し入れる。(予算、組織、人事、開校計画)
- (4) 以上の3項目と、その他R/Dの基本原則につき、バ側に充分理解させるため必要事項を記録したミニッツをとりまとめる。
- (5) これまで調査されたデーター及び今次調査で得られた事実に基づき、調査団は、本プロジェクトの実施に係る基礎資料とすることを目的として、帰国後報告書を取りまとめる。
- (6) その他

### 1-3 調査団の構成

#### MEMBERS' LIST OF JAPANESE PRELIMINARY SURVEY TEAM ON NURSING EDUCATION PROJECT IN CNPI

パキスタン国看護教育プロジェクト事前調査団名簿

Dec. 14-21, 1986

- (1) Ms. Akiko ITOH (Leader)      Director.  
伊藤暁子 (団長)      National Center for Nursing Education & Research,  
   Ministry of Health & Welfare  
   厚生省看護研修研究センター所長
- (2) Ms. Chiyoe SHIMA (Nursing Education System)  
志摩チヨ江 (看護教育制度)      Director,  
   International Nursing Foundation of Japan  
   (財) 国際看護交流協会理事
- (3) Ms. Toshiko IKUTA (Nursing School Management)  
生田俊子 (看護学校管理)      Professor,  
   St. Mary's Junior College of Nursing  
   聖マリア学院短期大学教授 (学科長)
- (4) Ms. Junko TASHIRO (Advanced Nursing Education Curriculum)  
田代順子 (専門看護カリキュラム)      Assistant Professor,

(5) Mr. Tadashi SATO  
佐藤 忠 (調整)

St. Mary's Junior College of Nursing  
Deputy Head,  
Medical Cooperation Division, JICA  
JICA 医療協力課課長代理

1-4 調査日程及び内容概略

日順	月日	曜	調 査 行 程
(1)	12.12	金	17:30~19:30 出発前打合せ (於JICA医協部) ○ ミニッツドラフト ○ 調査チェックリスト確認
(2)	13	土	17:40 東京発 (LH643) 01:00 カラチ着日本総領事館の桶田氏の出迎え (Hotel Midway House)
(3)	14	日	11:30 カラチ発 (PK-312) ※イスラマバード15:10着予定のところ, 前大統領の娘ブット夫人の同乗のため, ラホル空港で約3時間足止め, 18:30着 和田JICA所長, 野田イスラマバード小児病院プロジェクト調整員の出迎え (Islamabad Hotel) 19:00~20:30 和田所長よりプロジェクト関係の近況につき説明を受け, 調査団側より対処方針, 調査方法等につき説明。野田調整員同席。 20:45 名食 (和田所長招待)
(4)	15	月	8:50 ホテル発 9:00 日本大使館に柳大使を表敬, 和田所長, 大部一等書記官 (本件担当官) 狩俣一等書記官同席 ・ 調査団側より対処方針を説明 ・ 柳大使より協力期間に関するコメント及びパ国医療サービスにおける看護婦不足の実態を紹介。 10:00 和田所長, 大部, 狩俣一等書記官とともに調査, 協議方針打合せ, ミニッツ署名者, パ側プロジェクト実施責任体制, 協力内容につき詰める。 11:30 JICA 事務所 12:00 看護婦・医療技術者養成学校 (College of Nursing & Paramedical Institute = CNPI) にて

日順	月日	曜	
(4)	12. 15	月	<p>Dr. M. Afzal Naubhar プロジェクトダイレクターと非公式な打合せ (日程, ミニッツ, 調査事項) 及び校内視察。</p> <p>13:30 イスラマバード小児病院 (Children Hospital) 視察, (受付, 入院病棟) カウンターパート研修員として受入れた Mrs. Ali 総婦長が案内。入院患者 19 人, 日毎に増えつつあるとの説明。日本からの 12 月中旬の専門家の赴任に強い期待。看護婦チームの早期派遣を要望。野田調整員日本側オフィス整備をほぼ完了。Dr. Abbas 副院長 (C/P 受入れずみ) 他用中にもかかわらず駆けつけ歓談。院内全体に日本及び日本人に対する好感感ぜられた。</p> <p>14:45 財政・経済省, 訪問</p> <p>Mr. Mohamad Fahcem 次官 表敬, 和田所長同席</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査団側よりこれまでの経緯を今後の日本側の対処方針について説明。日本側が持参したミニッツ案に沿って双方の合意が得られた場合, 財政・経済省による counter sign を要請</li> <li>・次官補より基本的に本プロジェクトの早期開始について同意, ミニッツに対するサインについても了承。CNPI の予算は確保ずみなるもその執行は保健省の然るべき手続必要なる旨説明。その他一般基礎教育期間に関連しての看護教育制度のあり方について, 日本側のコメントを求めた。</li> </ul> <p>15:40 昼食</p> <p>17:00 JICA 事務所にて団内ミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 日目のバ側との協議内容の検討, 整理, ミニッツ案文, 調査項目等調査, 協議方針について練り直し。和田所長よりバ側の体制, 意向について事情聴取。その他作業 (~ 21:00 まで)</li> </ul>
(5)	16	火	<p>8:30 ホテル発</p> <p>8:45 Central Governmental Hospital "Poly Clinic" 訪問, NICU 病棟を視察, 英国で医学を修めた Dr. Zafar Naem (日本の国立小児病院にても研修) の案内。NICU インキュベーター 5 台 (独, DRAGER 製) 専門医 1 人, Head Ns. 1 人, Assistant Ns. 2 人の体制で管理, NICU 看護婦の教育は Dr Naem が実施。NICU 分野の看護婦教育の重要性を強調。</p> <p>9:30 イスラマバード小児病院に Dr. Mushtaq A. Khan 院長を表敬, 総婦</p>

日順	月日	曜	
(5)	12.16	火	<p>長Mrs.Ali が同席，看護婦の社会的地位向上，基礎教育（10年）の問題，看護教育の言語の問題，看護教員養成の問題，地域保健看護との連携等について意見交換。</p> <p>Mrs.Ali より小児病院勤務の看護婦教育用のモデルが欲しい旨要請あり。</p> <p>11:30 パキスタン，インスティテュート，メディカル，サイエンス＝PIMS（旧称：イスラマバード・ホスピタルコンプレックス） Executive Director, Ali Masood Akram Project Director, M.A. Naubhar 他と調査団持参のミニッツ及び調査リストについて協議。 （～13:40まで）協議内容は別項参照。</p> <p>14:00 昼食</p> <p>15:00 看護婦・医療技術者養成学校（College of Nursing &amp; Paramedical Institute = CNPI）〔以下看護学校＝CNと略記〕</p> <p>16:00 保健省にMr.Fazlur Rehman Khan 次官を表敬。保健省Nurse Advisur：Mrs.Amtur Anis 同席。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児病院，看護学校等日本の援助に謝辞</li> <li>・ADB（アジア開発銀行）ローンによる看護分野の施設整備（ジンナー校のカレッジ校舎，ポリクリニックの基礎看護校舎と各々の機器）と看護教育，行政体制の整備（カリキュラム開発と看護職の新設ポストの確保）並びに外国人コンサルタントの指導と自国看護婦の外国研修の実施に関するプロジェクト（総額1,200万US\$）の概況説明。</li> <li>・CNPIの看護部門を除く，パラメディクス部門への日本の協力の可能性につき打診あり。日本側単発専門家派遣の協力方式を説明。</li> </ul> <p>18:00 JICA事務所にて，パ側との交渉結果に基づき，ミニッツ第1次修正案及び別添協力スケジュール表作成。協力計画案に関し団内検討会（所長同席）。（～22:00）</p>
(6)	12.17	水	<p>9:00 JICA事務所 ミニッツ修正ドラフト浄書作業他。</p> <p>11:00 看護学校（CN）訪問</p> <p>11:30 同上A.Vルームにて，パ国保健省看護アドバイザーMrs.Amtur Anis より当国看護婦及び看護教育に関する実情聴取（Ns Advisorの業務範囲，ジンナー校とイスラマ校の性格付け，保健省看護行政担当部門とパ国Nursing Councilの関連他）</p>

日順	月日	曜	
(6)	12.17	水	<p>13:00 昼食</p> <p>14:00 JICA事務所 ミニッツ修正ドラフト確認</p> <p>15:00 看護学校(CN)及びWFPプロジェクトオフィスにてプロジェクト ダイレクター Dr. M.A.Naubahar と以下に関して協議, 調整あるいは情 報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニッツ修正案の検討と最終ドラフトの合意</li> <li>・署名日時, 場所, 立合人等の打合せ</li> <li>・提出済 Questionnaire に対する回答入手</li> </ul> <p style="text-align: right;">( ~ 18:00 )</p> <p>19:00 柳大使主催夕食会 ( 於 . 公邸 )</p> <p>22:00 ホテル帰館後, 12/18 行程に関する打合せ</p>
	18	木	<p>8:30 ホテル発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 伊藤, 生田, 志摩, 田代はパ国 Nursing Council を訪問</li> <li>- 佐藤は JICA 事務所及び看護学校にてミニッツ署名の準備</li> </ul> <p>11:00 JICA にて団員合流</p> <p>12:00 ミニッツ署名</p> <p>パ 側: Maj Gen (Retd) Ali Masood Akram パ国医科学研究庁 (PIMS) 総長</p> <p>日本側: 伊藤暁子 厚生省看護教育研修センター所長</p> <p>カウンターサイン Mr. Mohammad Faheem Deputy Secretary, Economic Affairs Div.</p> <p>場 所: 中央病院 ( General Hospital ) 内 PIMS 会議室 ( 日本側より団員の他和田 JICA 所長, 狩俣一等書記官が同席 )</p> <p>署名後, PIMS 副総長 Dr. Majid Rajput の案内で, 中央病院 ( General Hospital ) を視察。</p> <p>13:00 JICA 事務所</p> <p>13:30 昼食</p> <p>15:00 柳大使に, 調査結果, ミニッツ署名等について報告 ( 和田所長, 狩俣書記官同席 )</p> <p>16:00 調査資料等の整理</p> <p>18:00 小児病院プロジェクトに関し, 野田調整員と打合せ, 住宅問題等 について情報収集</p>

日順	月日	曜	
(6)	11. 19	金	休 日 (資料整理と郊外見学)
	20	土	8:40 ホテル発 9:00 WFP OFFICE にて Dr Naubahar 秘書, Miss Farhal Yasmin と合流, Rural Health Center へ 9:30 Rural Health Center ・センターの下部機構として4つのヘルスユニットを持ち, 5万人程度をカバー ・活動内容としては, EPI, MCH 急性疾患診療, Family Planning, 小手術 (男6, 女6ベッド) ・センター陣容, MD (2人), Medical Assistant (4人), Lady Health Visitor (4人), Dispensarist (1人), Vaccinata (1人), Nurse (6人) 10:30 RHC の下部機構 Rural Health Unit を訪問。Medical Assistant (1人), Lady Health Visitor (1人), その他により構成。 1987年よりMDが1人ずつ配属される計画ということであるが実現は難しい様子。 11:30 PIMS 総長主催ティーパーティー A.M.Akran 総長不在なるも, Dr. Rajput 次長が代理主催, Dr. A.H. Akhtar 上級医師, Dr. Z. Dossal 婦人科医 (女医) 及び Dr. Mushtaq 小児病院長等が出席。 午 後 資料整理 19:00 調査団主催夕食会
	21	日	10:00 JICA 事務所へ最終報告 各種資料等受領, 精算 16:00 ホテル発 16:30 和田所長宅にて夕食 19:05 イスラマバード発 (PK309) 21:05 カラチ着, 大千里副領事の出迎え。市内ホリディーインホテルにて同副領事に調査概略につき報告
	22	月	02:45 カラチ発 (LH642) 15:15 成田着

1-5 主要面談者

・財政経済省

次官補 Deputy Secretary, Mr. Mohammad Faheem, Economic Affairs Div,  
Ministry of Finance and Economic Affairs

・保健省 ( Ministry of Health, Special Education & Social Welfare )

次官, Secretary, Mr. Fazal-ur-Rehman Khan

看護担当参事官, Nursing Advisor

Mrs Amtul Anis

・パキスタン医科学研究庁 ( Pakistan Institute of Medical Sciences = PIMS, 旧称  
Islamabad Hospital Complex = IHC )

総長 Executive Director,

Maj.Gen. (Retd) Ali Masood Akram

看護大学・医療技術者養成校プロジェクトダイレクター

Dr. M. Afzal Naubahar

PIMS 次長

Dr. A. Majid Rajput

小児病院

院長 Dr. Mushtaq A. Khan

副院長 Dr. Abbas

総婦長 Mrs. Ali

中央病院 ( General Hospital )

内科医長 Dr. Abdul Hafeez Akhtar

産婦人科医長 Dr. Zobeida Dossal

・地方保健所 ( Rural Health Center ) 関係

担当課長 Dr. M-Azhar Khan

タールライ保健所長 Dr. Telmina Tamizuddin

” 担当医 Dr. Nadeem Ahmad Gondal

・ポリクリニック小児科医長 Dr. Zatar Naeem

・パキスタン国立衛生研究所 ( NIH )

総長 Maj Gen. (Retd) Mr. M. I. Burney

・在パキスタン日本大使館

柳 健一 大使

小林 二郎 公使

・在カラチ総領事館

大千里祥一 副領事

桶田 和義 館員



大部 修司 一等書記官

狩俣 茂雄 ”

・ JICA パキスタン事務所

和田欽次郎 所 長

立石 勝 所 員

・ ㈱飛島建設 CNPI プロジェクト事務所

勝田所長 他

## 2. 要 約

- ① 派遣前には、パ側対応について相当懸念されていたが、パ側体制は整いつつあり、日本側の調査団派遣目的は達せられたと考えられ、プロジェクト開始の機は熟している。
- ② パ国滞在中は、保健省次官、財政・経済省次官補、パキスタン医科学研究庁（PIMS）総裁、CNPI プロジェクトダイレクター、保健省看護担当アドバイザー他と接し、表敬あるいは、協議等を行った。今回の調査から、今後のプロジェクト促進のキーパーソンは PIMS 総裁であり、プロジェクトの実質的な実務担当者は当分の間 CNPI プロジェクトダイレクターであることが明確になった。
- ③ パ国の各関係機関（保健本省、財政・経済省、PIMS 当局、総合病院、小児病院他）は、本看護教育プロジェクトが日本の協力により開始されることを期待しており、実施に当っては協力を惜しまない旨表明している。
- ④ 特に、日本の協力が進行している小児病院関係者の友好的対応は心強く、技術協力そのものの成果は今後期待されるが、人と人との理解、つながりが確実に育ちつつあることが確認できた。
- ⑤ 本プロジェクトに関しても、コンタクト段階、長期調査段階を通じて、パ側関係者との間で良好な人間関係をつくって来られた派遣専門家の努力はパ側でも高く評価されていた。
- ⑥ パ側との間で、今次調査団が確認したことは以下のとおり。（詳細はミニッツ参照）
  1. プロジェクトの名称  
Project on Nursing Education  
(パキスタン国看護教育プロジェクト)
  2. 技術協力の内容
    - (1) 看護大学の運営と管理に関する指導
    - (2) 卒後看護教育に係るカリキュラム教育技法、教材等の開発に関する指導
    - (3) その他双方が合意する事項

### 3. 協力期間

1987年より3年間、(パ側が開校しコースを速やかにスタートさせれば、日本側は、新年度早々にもR/Dミッション派遣が可能である旨伝えた)

### 4. パ側責任体制

- ・政府としては、保健省がPIMSの運営審議会を通じ全責任を有する。
- ・PIMS総長がプロジェクトの運営と管理の責任を有する。
- ・ONPIのプロジェクトディレクターがプロジェクトの実施について責任を有する。

### 5. パ側が本プロジェクトに関連し、日本側に約したこと。

- ・1987年1～2月の開校
- ・1987年3月までの卒後コースの開始
- ・看護大学校長の任命
- ・予算の確保

### ⑦ 期待される今後のスケジュール

(ミニッツ別表)

1987年2月	開校
1987年3月	コース開設
1987年4～5月	実施協議調査(R/D)
1987年6月	A <sub>1</sub> , A <sub>2,3</sub> , A <sub>4</sub> フォーム等各要請書受理
1987年7月	日本人専門家派遣

⑧ 本プロジェクトの準備は今後順調に推移してゆくことが期待されるとしても、プロジェクトそれ自体以外の要件にも左右されることが多いことから特に以下の点については充分留意すべきである。

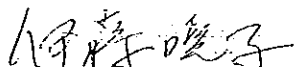
1. 医師中心に作成されたカリキュラムをどのように改善してゆくか
2. 基礎看護教育段階で不足している理論をどう補うか
3. 実習病院の確保と指導者の育成
4. 日本側長期専門家の派遣分野とリクルートならびに短期専門家の組み合わせ方
5. 調整員派遣について早い段階で準備すること。
6. 車輛等、専門家活動の基盤整備を実施すること。
7. 研修員受入の対象の選定、専門別教材作成の方針、学校運営に関する合同会議の持ち方等の検討
8. 卒後看護コース修了者に対する資格等
9. 国内委員会の設置

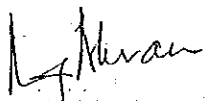
MINUTES OF DISCUSSIONS  
ON  
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR NURSING EDUCATION  
AT "COLLEGE OF NURSING AND PARAMEDICAL INSTITUTE"  
IN ISLAMIC REPUBLIC OF PAKISTAN

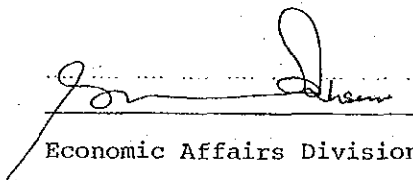
Japanese Preliminary Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Miss Akiko Itoh, Director, the National Centre for Nursing Education and Research, Ministry of Health and Welfare of Japan visited the Islamic Republic of Pakistan from December 13th to 20th 1986, for the purpose of defining the framework of Japanese Technical Cooperation Project for nursing education (hereinafter referred to as "the PROJECT") in College of Nursing and Paramedical Institute, Pakistan (hereinafter referred to as "CNPI").

The Team had a series of discussions and exchanged views with the Pakistani authorities concerned, and as a result of those discussions both sides agreed to record the essential matters referred to in the document attached hereto.

Islamabad, December 18th, 1986.

  
Akiko Itoh  
Leader of Japanese Preliminary  
Survey Team, Japan International  
Cooperation Agency (JICA)

  
Ali Masood Akram  
Executive Director,  
Pakistan Institute of  
Medical Sciences, (PIMS)

  
Economic Affairs Division

D.S. E.A.D.

ATTACHED DOCUMENT

1. Objectives of the PROJECT.

The PROJECT aims at contributing to upgrading the educational technique and necessary knowledge to carry out the post graduate nursing courses bringing up the advanced nurses adequate to Pakistani medical services need.

2. Name of the PROJECT.

Project on Nursing Education.

3. Implementation of the PROJECT.

The Japanese Technical Cooperation under the PROJECT will be implemented through the dispatch of Japanese experts, acceptance of Pakistani personnel for training in Japan and provision of equipment.

4. Content of technical cooperation.

The technical transfer regarding the matters mentioned below will be carried out under the PROJECT.

- 1) Management and administration of the College of Nursing.
- 2) Curriculum, educational technique and materials for post-graduate nursing courses.
- 3) Other matters mutually agreed upon as necessary.

5. Term of the PROJECT.

The duration of the technical cooperation under the PROJECT is expected 3 years from sometime in 1987 on the condition that Pakistani side will start the post-graduate nursing courses in the College of Nursing.

6. Activities of Japanese experts.

Japanese experts will be despatched to Pakistan for the purpose of technical transfer to Pakistani side.

7. Measures to be taken by Pakistani side before the time when the Record of Discussion for the PROJECT will be signed by both sides :-
  - 1) to start post-graduate nursing course and inform that fact to Japanese side;
  - 2) to appoint the Principal and staff in charge of nursing education of the College of Nursing;
  - 3) to make necessary arrangement to secure the budget for implementing the PROJECT;
  - 4) to collect the information about the housing accommodations in which long term Japanese experts will stay.
8. Responsible authorities of Pakistani side for the PROJECT on the preparation and implementation stage.
  - 1) Ministry of Health, Special Education and Social Welfare through the Board of Governors of PIMS will bear overall responsibilities for the PROJECT.
  - 2) Executive Director of PIMS, Ministry of Health, Special Education and Social Welfare will bear the responsibilities for management and administration of the PROJECT.
  - 3) Project Director of CNPI will bear the responsibilities for implementation of the PROJECT.
9. Organization of the PROJECT.

The organisation for the smooth implementation of the PROJECT are expected to be established at the starting time of the PROJECT as follows ;

1) Steering Committee.

- |          |   |
|----------|---|
| Chairman | - Secretary, Ministry of Health, Special Education and Social Welfare.      |
| Member   | - (Pakistani side)  |
|          | - Executive Director, PIMS  |
|          | - Nursing Advisor, Ministry of Health, Special Education and Social Welfare |

- Chairman of Pakistan Nursing Council
- Project Director, CNPI
- Principal of the College of Nursing (Japanese Side).
- JICA Representative in Pakistan.
- Team Leader of Japanese expert team

NOTE : 1) Others may be appointed by Chairman in case of necessity.

2) Staff of Japanese Embassy in Pakistan can attend to the Steering Committee Meeting as an observer.

(2) Joint Committee

Chairman = Executive Director, PIMS

Member = (Pakistani Side)

- Project Director, CNPI
- Nursing Advisor, Ministry of Health, Special Education and Social Welfare
- Principal, College of Nursing
- Matron of Practical Institution
- Others mutually agreed upon (Japanese Side)
- Team Leader of Japanese expert team
- Coordinator of Japanese expert team
- Japanese experts
- JICA Representative in Pakistan

NOTE ; Staff of Japanese Embassy can attend to the Joint Committee Meeting as an observer.

10. Items related to the PROJECT have been confirmed by both sides as follows :

1) CNPI will be inaugurated in January 1987, and Japanese side will be informed of the schedule through official channel.

- 2) The post-graduate nursing courses will be started as soon as possible after the inauguration and at latest before March 1987.
- 3) On the condition that the post-graduate courses will be started , Japanese side will dispatch the implementing survey team for making the Record of Discussion of the PROJECT to start the technical cooperation.
- 4) The appointment of the Principal and the Teaching Staff of the College of Nursing has already been prepared by Pakistani side according to the list attached herewith as an annex.
- 5) The measures to secure the budget for implementation of the PROJECT have been taken by Pakistani side.

11. Schedule for preparatory and implementing stage of the PROJECT.

Tentative schedule of the PROJECT is attached herewith as an annex.

NOMINAL ROLL OF GAZETTED STAFF

COLLEGE OF NURSING

ISLAMABAD

1. Principal - Interviews are being held shortly.

2. Senior Lecturers(Assistant Professors):

- a) Lt.Col(Retd) A.R.Sipple,  
MBBS., MCPS., M.Phil.
- b) Dr Muhammad Nasrullah,  
MBBS,FCPS.
- c) Dr Munir Amjad Baig,  
MBBS., MCPS., DOMS.
- d) Dr Abdus Salam Khan,  
MBBS., M.Phil

3. Lecturers:

- a) Dr Syed Iqbal Rehmat Ullah,  
B.Sc., MBBS.
- b) Dr(Miss) Kausar Iqbal,  
MBBS.
- c) Dr Abdul Latif,  
MBBS
- d) Dr Ejaz Ahmad,  
MBBS
- e) Dr Nasir Saeed,  
MBBS
- f) Dr Humayun Haque,  
MBBS
- g) Dr(Miss) Farhat Parveen,  
MBBS., MCPS.
- h) Aamir Zaman,  
MBBS



NOMINAL ROLL OF NON-GAZETTED STAFF  
COLLEGE OF NURSING  
ISLAMABAD

1. Mr Abdul Majeed, Librarian
2. Miss Farah Deeba, Library Assistant
3. Mirza Mir Alam, Superintendent(Admin/Accounts)
4. Mr Abdul Rehman, Stenographer
5. Accounts Assistant - Vacant
6. Mr Mahboob Ali Akhtar, Projectionist
7. Mr Muhammad Azam, Technician
8. Technician - Vacant
9. Mr Muhammad Ejaz, Assistant Technician
10. Assistant Technician - Vacant
11. Mr Bahkat Shah, Upper Division Clerk
12. Mr Muhammad Yasin Qureshi, Upper Division Clerk
13. Mr Muhammad Umar Farooq, Cashier
14. Mr Muhammad Shafi, Store Keeper
15. Raja Muhammad Saleem, Lower Division Clerk
16. Mr Muhammad Arshad, Lower Division Clerk
17. Mr Nadeem Shahzad, Laboratory Attendant
18. Mr Mumtaz Alam, Laboratory Attendant
19. Mr Zafar Iqbal, Laboratory Attendant
20. Mr Muhammad Saddique, Laboratory Attendant
21. Tariq Zaman, Daftri (Gastetnor Operator)
22. Tariq Mahmood, Naib Qasid
23. Sajid Mahmood, Naib Qasid
24. Muhammad Sharif, Naib Qasid
25. Muhammad Safeer, Naib Qasid
26. Javed Iqbal, Naib Qasid
27. Piara Masih, Frash
28. Mahmood Akhtar, Frash
29. Yousaf Masih, Sanitary Worker
30. Razaq Masih, Sanitary Worker
31. Salamat Rashid, Sanitary Worker

ANNEX.

TENTATIVE SCHEDULE OF THE PROJECT

	1987		1988		1989		1990	
	Jan	Jun	Aug	March	Aug	Aug	Aug	Aug
Time Schedule =====	↓ CNPI INAUGURATION ↓ COURSES START	↓ R/D (A1 form A2-3 A4 (Counterparts) (Equipments)			Consultative Team I (Joint Committee)			Evaluation Team (Joint Committee)
Japanese Experts =====								
Leader								
Long term expert (1)								
Long term expert (2)								
Long term expert (3)								
Coordinator								
Short term expert								
Counterpart Training =====								
Counterpart A								
Counterpart B								
Counterpart C								
Counterpart D								
Counterpart E								
Counterpart F								
Counterpart G								
Counterpart H								
Counterpart I								
Provision of Equipment =====								

( NOTE: JOINT COMMITTEE MEETING MAY BE HELD WHENEVER NECESSARY )

### 3. 要請の背景と経緯

パキスタン国では現在社会開発のため第6次5ヶ年計画（1983-1988）が進行中である。

これは、第5次までの経済開発に重点を置いていた視点を改めて「国民の国民による国民のための開発」をキャッチフレーズに民間の開発投資を促進し、特に地域開発、教育の普及、公共サービスの充実に努めることを目標としている。

この中で保健医療サービスについては、施設・人材共に低水準であることから、パキスタン政府は下記の施策戦略と取り組んでいる。

#### 1) 地域保健医療サービスの拡充

地域の基本的ユニットから、農村診療所、郡、県レベル、大学付属病院とネットワークシステムを整備し、プライマリーヘルスケアを充実させる。

#### 2) 基幹医療施設の整備

疾病の治療を十分に行うため、基幹病院の整備・拡充を行うため、本計画で25,000床の増床を行いたい、とする。

#### 3) 保健・医療マンパワーの養成

地域保健の体制整備にも第三次医療の充実のためにも、医師をはじめとする看護婦などパラメディカルスタッフの養成は必然である。

特に看護婦数が医師の4分の1と少く、日本との比較では人口比にして40分の1といった数であり、本5ヶ年計画中に5,410人の養成を目標としている。

以上のような国家計画を円滑に進めるため、同国政府は、看護婦の質的向上を図るための卒業看護教育学校とパラメディカルスタッフの養成校の建設を1984年3月に要請した。

技術レベルの高い看護婦の育成は、数の充足と合まって考えるべきであり、日本の無償資金協力としては焦点を絞った効果的な援助として実施された。（パキスタン初の専門看護婦学校として）

こうした背景で学校建設が1985年4月から1986年3月までの12か月で完成し、宿舎が1985年8月から86年10月までの15か月で完了し、パキスタン側に引き渡されている。

学校建設にともなう基本設計調査時（1985年8月15日署名）、および基本設計確認調査時（1985年10月15日署名）のミニッツではいずれもパキスタン側がすでに本校に対する技術協力をわが国にリクエストしている事実がある。

しかし、それらを確認するため、昭和61年3月17日から26日の期間で日本側は技術協力に関するコンタクト調査団を派遣した。そこで相手国のプロジェクト・ダイレクターと協議し非公式ながら日本側へ技術協力要請の文書を入手した（資料1）。加えて協議結果をミニッツの形で交換している（資料2）。

ここでは、日本側の考える技術協力のプロジェクト方式とはどんな形を示すかを説明し、看護婦の卒後教育校のみを対象として（パラメディカルスタッフの養成校を除く）考えたいこと、期間は5年とする、などを合意した。

さらに、6月30日から7月21日まで、技術協力の枠組み検討のために必要とされる看護学校の実態、看護界自体が抱える問題、具体的協力項目の把握などのために長期調査員を派遣した。

この間、7月19日付で、パキスタン政府は同国財政・経済省を通じ技術協力プロジェクトの要請を正式に行った（資料3）。同時にパキスタン側の技術協力の非公式ではあるが具体的内容メモを入手している。

以上の経緯が示すとおり、具体的要請が正式に日本側に出されるまでに時間がかかった背景には、看護学校が完成したものの、校長を始めとするスタッフ（教員）などマンパワーの確保ができていないことが大きな原因であり、現在のProject Directorも専門分野では責任がとれない存在であることが問題であった。

しかし、従来のIslamabad Hospital Complex (IHC)がPakistan Institute of Medical Sciences (PIMS)と名称を変え、Autonomous bodyとして歩き出し、Executive DirectorにパワーのあるDr. Ali Masood Akramが就任した今、ソフト面の整備にも拍車がかげられることが予想できる。

本事前調査団のミニッツに添付したとおり、学校長は1月には決定したいということであるが、12名の講師が内定しているので、昭和62年度には開校の運びとなるであろう。

#### 4. 開発計画の現状と関連計画

3の項目の冒頭で述べた如く、パキスタン国は第6次5か年計画の開発計画の中で、保健医療サービスの拡充を目指し、そのための施設、マンパワーの整備、拡大を図っている。

（表1） そのための予算の裏付けもなされている（表2）。

開発計画の年次別数字は、実働数ではないものの表3に示される如く、漸次増加している。また、関連計画として次のことが判明した。

##### 4-1 関連協力計画について

Asia Development Bank (ADB)による以下のような内容のNursing Education Projectが計画中。

表 1

## Change in Population per facility, 1988

Facility	Benchmark 1983	Population per facility	End Posi- tion 1988	Population per facility
<b>Infrastructure:</b>				
(i) Hospital beds	51,400	1,790	63,170	1,678
(ii) Rural Health Centres	374	172,241	729	101,133
(iii) BHUs/Sub-Centres/Dis- pensaries/MCH Centres	6,490	12,943	9,090	9,820
<b>Manpower:</b>				
(i) Doctors	20,000	4,600	36,000	2,940
(ii) Dentists	1,100	83,000	1,700	62,350
(iii) Nurses	5,530	1/6.4 beds	10,000	1/5 beds
(iv) Paramedics	37,000	2,486	75,000	1,413
(v) TBAs	15,000	1/3 villages	45,000	1/village

表 2

HEALTH  
Financial Allocations 1983-88

S. No.	Sub-Sector	Federal	Pro- vincial	Punjab	Sind	NWFP	(Million Rupees)	
							Baluch- istan	Total (Col. 3+4)
1	2	3	4	5	6	7	8	9
1.	Rural Health Programme	822	4,838	2,715	854	883	386	5,660
2.	Preventive Programmes	1,231	259	155	42	25	37	1,490
3.	Hospital beds including Teaching Hospitals	1,457	1,838	601	578	310	349	3,295
4.	Health, Manpower Development -	53	922	598	247	57	20	975
5.	Medical Research	85	-	-	-	-	-	85
6.	Miscellaneous Programmes	44	76	44	18	14	-	250
7.	Nutrition Programme	250	-	-	-	-	-	250
8.	Dental Care	20	230	115	60	40	15	250
9.	Traditional Medicine	223	152	88	35	21	8	375
10.	Programmes for Disabled (Block allocation)	500	-	-	-	-	-	500
Total		4,685	8,315	4,316	1,834	1,350	815	3,000

表 3

## HEALTH FACILITIES

Year	Hospitals	Dispensaries	Materi and child Welfar Centre	Beds in Hospitals and Dispen- saries	Registered Doctors	Registered Nurses	Registered Lady Health visitors	Population per Hospital Bed	Doctor
1947	292	722	91	13,769	..	..	..	2,564	..
1948	300	741	963	14,117	1,300	88	4	..	..
1949	301	769	102	14,180	1,912	214	4	..	..
1950	304	807	107	14,924	2,298	418	67	2,431	15,366
1951	306	823	110	14,741	2,621	574	100	2,454	14,804
1952	311	860	153	15,324	2,860	674	123	2,419	12,962
1953	320	989	177	19,872	3,277	786	127	2,393	11,769
1954	319	928	183	17,092	3,590	862	138	2,277	10,838
1955	333	984	198	19,197	3,293	963	142	2,077	12,108
1956	325	980	224	19,398	4,270	1,064	159	2,106	9,569
1957	336	1,053	257	19,640	4,770	1,190	169	2,132	8,778
1958	338	1,112	284	21,169	9,387	1,269	181	2,027	7,964
1959	337	1,155	349	21,658	5,968	1,725	195	2,029	7,364
1960	342	1,195	348	22,100	6,485	1,929	230	2,038	6,944
1961	341	1,251	422	22,394	7,255	2,067	276	2,063	6,368
1962	361	1,374	449	22,775	7,894	2,238	314	2,087	6,021
1963	365	1,514	488	23,429	8,619	2,472	377	2,088	5,674
1964	365	1,626	524	23,664	9,418	2,641	501	2,126	5,342
1965	379	1,695	554	25,603	10,682	2,945	627	2,022	4,846
1966	389	1,754	558	26,200	10,845	3,183	712	2,033	4,911
1967	391	1,834	650	27,291	11,732	3,527	348	1,678	3,903
1968	398	1,751	650	27,112	12,369	3,813	970	2,079	4,557
1969	405	1,846	668	27,618	13,011	4,123	1,085	2,100	4,458
1970	411	1,875	668	28,976	14,109	4,543	1,109	2,061	4,231
1971	495	2,136	631	30,969	14,862	5,075	1,322	1,986	4,137
1972	496	2,137	675	35,337	15,789	5,504	1,458	1,792	4,012
1973	521	2,566	662	35,699	16,485	5,751	1,618	1,846	3,997
1974	517	2,836	690	33,866	17,194	6,010	1,627	2,005	3,949
1975	518	2,908	696	37,776	17,887	6,144	1,636	1,852	3,912
1976	525	3,063	715	39,129	18,757	6,685	1,688	1,843	3,845
1977	528	3,220	726	40,518	19,863	7,186	1,738	1,834	3,742
1978	536	3,206	748	42,469	20,931	7,768	1,823	1,804	3,660
1979	950	3,367	772	44,367	21,938	8,382	1,921	1,779	3,598
1980	602	3,466	812	47,412	23,594	9,098	2,009	1,716	3,448
1981	600	3,478	823	48,441	26,668	9,872	2,171	1,731	3,144
1982	613	3,457	817	50,335	29,931	10,554	2,368	1,717	2,888
1983	626	3,351	794	52,164	33,584	11,070	2,562	1,708	2,654
1984	633	3,386	767	53,603	38,322	12,000	2,795	1,714	2,398
1985	652	3,415	778	55,886	42,501	14,299	2,992	1,695	2,229

.. not available

Source: Health Division.

1) 対 象

二つの基礎看護教育校 (Karachi, Poly clinic) と Jinnah post-graduate Medical Center (JPMC) の中にある College of Nursing の 3 校を対象とする。

2) 協力内容

A 第 1 次計画

- ① カリキュラム開発
- ② Planning for Nurses (マンパワーの充実)

B 第 2 次計画

- ① 施設の充実
- ② 器材の充実

C 第 3 次計画

- ① Fellowship
- ② 州単位の看護教育相談

3) 期 間

1987 年から 4 年間

4) 予 算

120 万ドル

なお、当該プロジェクトに関し、コンタクト調査団派遣中、カナダと共同して技術協力をすることについての打診が財政・経済省から出されたが、今回の事前調査までに現地の JICA 事務所でカナダ大使館側と折衝され、日本独自で実施すべく話し合いがついていた。

## 5. 協力分野の現状と問題点

当該プロジェクトは日本側が建設した卒後教育のための看護学校とパラメディカルスタッフ養成校であるため、看護分野だけにしぼった技術協力をすることには片手落ちの感もあるが、今後の検討課題として先づ看護の技術協力を先行すべきであろう。

本プロジェクトには下記のような問題点が予想される。

- 1) 現時点で校長が未決定であることと、講師陣がすべて医師であること。この点は、この種の専門看護教育がパキスタン国で皆無であったことを考えるといたし方がないものの専門家の役割が単なる技術協力の枠をオーバーすることが予想される。
- 2) 卒後教育とはいえ、基礎看護教育のレベルが低いため、卒後教育の専門看護以前の基礎的な再教育も必要と思われる。

- 3) 実務教育の現場である小児病院、総合病院等の教育環境作りも併行して実施していかないと学校教育のみではレベルの統一化が図れない。
- 4) 教材が皆無に等しいので、当初は欧米の参考書を使用するとしても、パキスタンに合った教材作りを急ぐ必要がある。特に視聴覚教材が有効であると考えられるのでAVの開発をするためのバックアップが求められる。
- 5) 専門コースの中で麻酔看護は、日本の看護の役割と異なるため、部分協力しかできないと思われる。
- 6) 一年コースであるため、学生募集に関して卒後の身分保証を図るなど応募しやすい状況作りをパキスタン側に考えさせてゆかないと持続が困難である。
- 7) 関連プロジェクトが他の国際機関や第三国の援助で行われるので、日本の協力が比較の対象にされる恐れがある。
- 8) イスラム国であるという宗教的な生命感、倫理感を熟知した上で看護技術を移転してゆかなければならない。

以上のように種々問題も予想されるが、パキスタン側は、遅々とはいえ開校に向けての準備をソフト面で実施している。PIMSの所長をインタビューした記事が12月16日付の「The Muslim」新聞に掲載されていたので添付し、その姿勢の一端を紹介する(資料5)。

## 6. 要請の内容

1986年1月16日付で、ONPIプロジェクトダイレクター名で、プロジェクト要請ということで、10名の研修員の受入れ要請のみが提出された。その研修員の領域と人数、期間は次の様であった。

### 看護教育

1. 小児看護 1名
2. 手術室看護 1名
3. ICU看護 2名      a) 循環器      b) 術護      c) 小児      d) 腎透析
4. 精神・神経科看護 1名
5. Nursing concentrating exclusively 1名

以上の1～5を3～6ヶ月

地域看護(公衆衛生看護) 1名

6. 管理者として看護教育 1名      上記2名を1年間
7. 麻酔科看護 1名を3～6ヶ月

### パラメディカル



1. 教育基盤のある医療技術者 1名
2. 電子医療器機の維持者 1名

以上を3～6ヶ月というものであった。

このプロジェクト要請が研修員の受入れ要請のみであったことから、パ国のプロジェクトについての理解が不十分なためであろうと考えられ、同年3月19日～25日、日比野前タイ看護教育チームリーダーを団長とするコンタクトチームが派遣された。

コンタクトチームは日本の技術援助システムの説明をプロジェクトダイレクターに行ない、協議を重ね、パ国側が5年間のプロジェクトタイプの技術協力の希望が表明されたミニッツを持ち帰った。

その後、7月9日付けで、パ国経済省事務次官名で、正式にCNPIに対するプロジェクトタイプの技術援助の要請が日本大使館あてに出され、これに加えて、プロジェクトダイレクターの要請の内容が文書でなされた。この要請内容は、6月30日～7月21日に派遣された長期調査員の日比野氏、田代氏により持ち帰られた。

その要請の概要は、

- 1) CNPI はパ国において初めての卒後研修学校であることから、校長の公募において、十分な経験、資格のある人材が得られるとは考えられず、CNおよびPIの校長に対して、相談者を要請したい。相談内容として、
  - a) 組織の運営・管理上の問題
  - b) カリキュラム実施上の方法について
  - c) 各専門領域の教材について
- 2) 日本とパキスタンの専門家の交換

各々の6領域の日本とパキスタンの専門家を交換し、情報を得、看護教育の領域においてその経験を生かす。

図書室に英文の学術定期行物や書籍が必要である。その他、英語力養成のため英語ランゲジラボラトリーを作る必要がある。

協力期間は5年間で各領域は6ヶ月～1年としたいということで、詳細は後日、話し合いたいということであった。

今回の事前調査ではCNPIでの看護教育の教育管理と基礎看護教員養成を除く領域の専門看護に関しての協力の要請に対して行ない、パラメディカル部門に関しては別途考えることを明らかにして、後述する事前調査段階のプロジェクト協力計画案に合意を得、ミニッツの署名に至った。

From: Dr. M.A. Naubahar,  
Project Director,  
Tele: 851532.

Government of Pakistan  
College of Nursing & Paramedical Institute  
Islamabad Hospital College

No. F. 5-1/85-CNPI.

Islamabad, Jan 16, 1986.

Dear Sir,

As contained in Part-'C' under the title "Project Requirements" and sub-para-'d' of the approved PC-I of College of Nursing and Paramedical Institute(Quote)

"Approximate number of persons required to be trained per year (locally and abroad) and the kind of skills to be learnt"(unquote)

2. A reference is to be made to the Japanese Government through Economic Affairs Division for Technical Assistance.

3. It is proposed to ask for 10 fellowships of varying duration in specialised disciplines for imparting education and practical training to the Nurses and Paramedics. The general objective of the project is to raise the standard of health care in Pakistan by improving the quality and status of the nursing profession.

4. This is also in keeping with some of the important recommendations of the recently held Workshop on Nurse Education and Administration.

5. Ten fellowships of 3-6 months/duration for each of the disciplines currently gaining technical importance due to advancements in the technology and newer approach to such scientific methods. The disciplines are :-

1. Nursing in Paediatric.	-1	
2. Nursing in Operation Theatre.	-1	
3. Nursing in Intensive Care.	-2	
a) Coronary		3-6 months
b) Post operative		
c) Paediatric		
d) Renal Dialysis		
4. Nursing in Neuro-Psychiatry.	-1	
5. Nursing concentrating exclusively,	-1	
on the practice of Community Health Care (Public Health Nursing),	-1	one year
6. Nursing education as administrations.	-1	one year
7. Nursing in Anesthesia.	-1	3-6 months

PARAMEDICS:

- |   |    |            |
|---|----|------------|
| 1. Medical Technologist for teaching Broad Based Technicians. | -1 | 3-6 months |
| 2. For maintenance of Electro-medical equipment.              | -1 |            |

EXPECTED RESULTS

These trained Nurses on return to Pakistan will assume senior positions in the respective fields of speciality and will be involved in :-

- a) Nursing education as administration/ teacher.
  - b) Continuing education programme for up-grading the knowledge and skilled of nurses and Family Health Visitors - entailing visits to Rural and Community Health Centres.
  - c) Consultancy services with regard to special problem faced in the Community Health Centres.
  - d) Paramedical teaching and preparing a proper role/course of action of Paramedics in future Health delivery system.
  - e) Providing technical know how in maintenance of electro medical equipment in use by our institutions.
6. A formal request, therefore, may kindly be made to the respective quarters through Economic Affairs Division, so that full utilization is made of the opportunity provided in the agreement.

Yours sincerely,

*M.A. Naubahar*  
(Dr. M.A. Naubahar)

Surg.Rear Admiral  
M. Mohsin Pal,  
Director General Health,  
Health Division,  
Government of Pakistan,  
Islamabad.

Minutes of Discussions  
Between  
Japanese Contact Team  
and  
Pakistani Authorities Concerned  
on  
Japanese Technical Cooperation for  
The College of Nursing and Para Medical Institute

The Japanese Contact Team headed by Mrs. Michiko Hibino (hereinafter referred to "the team") visited the Islamic Republic of Pakistan from March 19, 1986 to March 25, 1986 to discuss possibilities of technical cooperation for the College of Nursing and Para Medical Institute (hereinafter referred to as "the Institute"). The team carried out field surveys, held a series of discussions and exchanged views with concerned officials of the Pakistan Government. As a result of those discussions, both sides agreed and confirmed the following essential elements of the discussions. ?

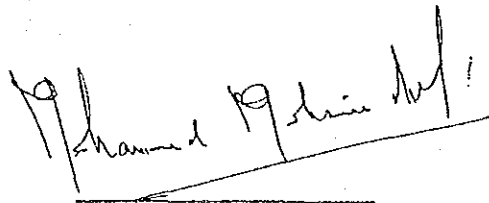
1. The Pakistani side fully understood Japan's technical cooperation system explained by the team, and expressed their desire to obtain "Project - Type Technical Cooperation" over the period of five (5) years.
2. Regarding the area of technical cooperation, the nursing education will be covered at the level of postgraduate.

Islamabad

March 24, 1986



Michiko HIBINO  
Team Leader  
of The Contact Team  
for Nursing Education



Surgeon Rear Admiral  
Mohammad Mohsin Pal  
Director General  
Ministry of Health &  
Social Welfare

Immediate.

No. 3(6)GM.III/84.

Government of Pakistan  
Economic Affairs Division

Dated: 9th July, 1986.

DEPUTY SECRETARY.  
PHONE: 822417.

Dear Mr. Oba,

We are grateful for the generous grant assistance extended by Government of Japan for the establishment of College of Nursing and Paramedical Institute including Hostel, at Islamabad.

You may kindly recall that Ministry of Health had expressed their desire to obtain "Project-Type Technical Cooperation" for College of Nursing and Paramedical Institute on the eve of the visit of Japanese Contact Team when Minutes of Discussions were also signed on March 24, 1986.

I wish to confirm the request for project-type technical cooperation for the above project.

With best regards,

Yours sincerely,

( MOHAMMAD FAHIM )

Mr. Shuji Oba,  
First Secretary,  
Embassy of Japan,  
Islamabad.

Copy to Resident Representative, Japan  
International Cooperation Agency (JICA), H. No. 54,  
St. No. 88, G-6/3, Islamabad.

RECEIVED

86.7.10

( S.M. HASAN ZAIDI )  
Section Officer.

資料 4

1. A JICA Nursing Education Survey Mission consisting of Mrs. Michiko Hibino and Miss Junko Tashiro has arrived in Pakistan. The purpose of the Mission is to survey on the nursing situation in Pakistan and devise strategy to achieve cooperation in nursing education in the country with deep understanding. The mission had prepared questionnaires for the student nurses, nursing totors and administrators with a view to finding an answer.
2. The mission undertook personal visits to each Provincial Headquarter. They met the Principals of the Nursing Schools functioning at Karachi, Lahore, Peshawar and Quetta alongwith Directors/Deputy Directors Health Services and exchanged views.
3. Having gathered sufficient information as well as basic data on nursing education, the mission also had useful discussions with the Executive Director of the Islamabad Hospital Complex, the Project Director of the College of Nursing and Paramedical Institute and the Director General Health, Ministry of Health, Islamabad. The discussion revolved round a variety of subjects ranging from undergraduate nursing education to postgraduate nursing education and sought the possibility of evolving a programme for technical cooperation in various specialized nursing disciplines and exchange of experts between the two countries. The conclusion of all these talks is summarized as follows.
4. These were a complete consensus on the issue of technical cooperation; it was felt that there is a definite need in certain areas of nursing education for a technical cooperation between the two countries. Following areas, were marked out:
  - 1) A CONSULTANT IN THE COLLEGE OF NURSING AND PARAMEDICAL INSTITUTE  
In response to the recently advertised post of the Principal of the College of Nursing, no applicant has been considered to be experienced enough or qualified enough to take up these responsibilities. It was, therefore, felt that a request may be made to the Japanese Mission for providing us the services of a Consultant who is to guide and advise the Principal, CN and PI:-
    - a) about the organizational and administrative problems.

b) the suggesting methods to impliment curriculum devised for Nursing Students and changes/amendment in view of her practical experience in the field.

c) devise teaching modules in various disciplines to be taught in the College.

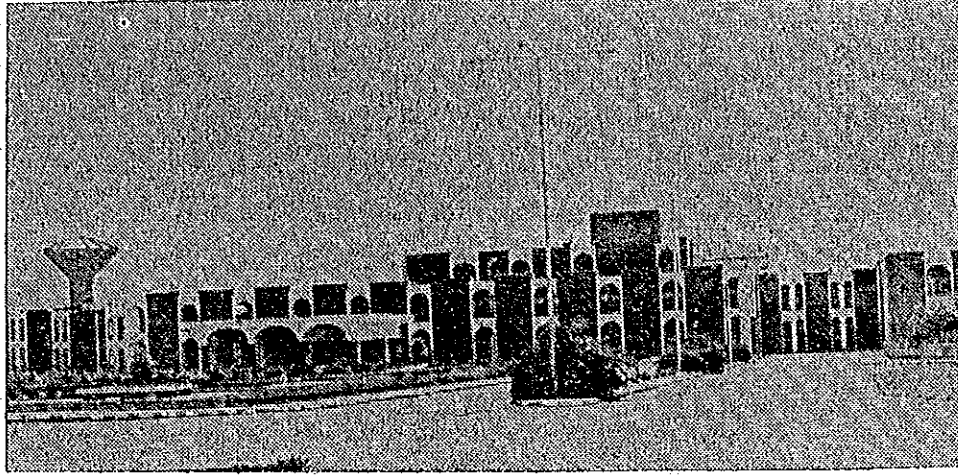
2) EXCHANGE OF EXPERTISE FROM JAPAN AND PAKISTAN

It was proposed that, to begin with, to have an exchange of 6 experts in each discipline from Japan and 6 from Pakistan to work in either country for gathering information and using the expertise in the field of nursing education.

5. The College of Nursing and Paramedical Institute constructed by the Japanese Architects/Consultants is in dire need of scientific periodicals and books in English language in the Library of the College.
6. The mission during their visit to the Provincial Nursing Schools have felt that English language must be taught side by side the specialized disciplines. It has been considered as an absolutely necessity of the Nursing School as weel as of the Institute. The Ministry of Health, therefore, would like to request the Japanese Government for establishing an English language laboratory in the College, so that the students who are taught subjects in English should also be improving their language in the laboratory, which is most modern way of learning a language.
7. These are the four areas in the field of technical cooperation which will be needed and would be of considerable value for both the countries.
8. As for the period of cooperation the term suggested is 5 years with a duration of 6 months to one year in each discipline. However, final details are being worked out and will be communicated at a later stage.

**THE MUSLIM**

Tuesday, December 16, 1986



## Soft opening of Hospital Complex

By SAEED QURESHI

ISLAMABAD, Dec 15: Maj Gen. Masood Akram, the Chief of the Pakistan Institute of Medical Sciences (PIMS) said today that in another two months 400 more beds will be commissioned.

In an interview with The Muslim Gen Akram, who has been one time a diplomat said the hospital has already 60 beds. It has the capacity for 470 beds.

Until recently known as the Islamabad Hospital Complex, the PIMS, has been given autonomous status which in the words of Gen Akram would be greatly helpful in cutting the red tap and quick decision making.

Describing it as a unique and the first institution in South Asia, with highly specialised services, Gen Akram disclosed, Pakistani specialists and doctors working abroad have offered their services to the Institute. The only constraint was the shortage of para-medical staff which, he said, was being met but the response has been slow.

Gen Akram who has recently joined as its Executive Director was very sanguine about the maintenance

of high standards enshrined in the charter of the Institute. At the moment treatment is free but the administration intends to levy separate fees for indoor and outdoor patients to meet some of the expenses.

The indoor fee may be Rs 100, said, Gen Akram pointing out that the other two institutions of identical standards namely Al Nahyan Institute at Lahore and Agha Khan Hospital at Karachi were charging the same amount.

When asked why such an outstanding medical institute has been quietly commissioned while it had incurred such sharp criticism for delays in its opening, Gen Akram said that it was a kind of 'soft opening'. He disclosed that with more beds and expansion of its services, President Zia may formally inaugurate the institute in the near future.

The Institute, meant for only chronic and complicated diseases, is receiving between 1700 to 1800 patients daily which is the highest number for any hospital in the country, Gen Akram said

that creates clogging and overcrowding in the corridors but the Gen hopes to find a solution to this problem very soon.

When asked whether doctors' qualifications and professional knowledge were commensurate with the high standards and the modern modes of cure, Gen Akram said that the doctors were very cooperative and secondly he would send them abroad to keep abreast with the latest techniques.

He has in mind an elaborate training programme which will greatly benefit the doctors now in service for decades.

The Children Hospital built by the Japanese has 200 bed capacity is a part of the Institute and as such the total indoor facility actually goes beyond 670 beds.

A Japanese team is arriving here to assess the functioning of the hospital and advise improvements with commitment for more aid.

Gen Akram said that President Zia as well as the Health Ministry were keen on removing all hurdles in the way of the Institute's smooth functioning.



## 7. 日本の他の協力との関連等

パキスタン国に対する現在協力中の日本政府の保健医療協力事業としては、「イスラマバード小児病院プロジェクト」があげられる。

イスラマバード小児病院（略称・IGH）は、「パキスタン・医科学研究庁（Pakistan Institute of Medical Sciences = PIMS）内の一施設であるが、日本政府は、当該病院の施設建設と、医療機器の設置に関し、無償資金協力をもって援助し、さらに、国際協力事業団の保健医療協力事業の一環として、プロジェクトタイプの技術協力を昭和61年7月（R/D署名は61年3月）より実施している。（詳細は資料-1参照）

1987年1月時点の協力の現況は、小児麻酔科医師をプロジェクト・チームリーダーとして臨床検査技師（2名）、放射線技師（1名）、業務調整員（1名）の4名からなる専門家チームを派遣中であり、このうち放射線技師を除く、他の3名は、1年から2年の長期専門家であり、腰を据えた技術移転に取り組み始めたところである。

一方、本プロジェクトの協力的分野としては、現在までのところ「小児看護」「手術室看護」「ICU看護」「精神科看護」「公衆衛生看護」が検討されているが、小児看護のみならず、他の分野でも小児対象の領域についての、病院実習は、当該小児病院が利用されることとなっているので、小児病院の諸部門の所期目標にそった稼働は大いに期待される場所である。

以上のことから、小児看護部門に限られることではあるが、看護大学における教育（理論と演習）とともに、病院実習の効果を挙げるには小児病院の必要部門の活動を高める必要があり、場合によっては、本プロジェクトのスタート前に、小児病院プロジェクトを通じ十分なテコ入れをすることなども有用と思料される。

なお、日本の協力は及んでいないが、PIMSの総合病院（成人対象）は、当該看護教育プロジェクトの実習機関として大きな比重を占めることから、当病院の各部門の稼働状況を詳しく確認する必要がある。

総合病院、小児病院のいずれも、上記のように機能面で、実習病院の場として問題なしとしないが、双方の病院長はじめ、医師、幹部看護婦等、病院を中核となっているスタッフは、一様に質の高い看護婦を養成することが急務であるという認識を持っており、本プロジェクトの一日も早いスタートを日本側調査団に要望した。



11. 専門家派遣

研修員  
機材供与  
ローカル・  
コスト負担  
(L・C)

年度	~57	58	59	60	合計	61
長期						4 (4)
短期						3 (1)
研修員						4
機材						60
L・C						

(注) 専門家は延人員, 機材は金額で単位百万円

専門家欄の ( ) 内は現在派遣中の人数。

12. 他の経済協力との関係 (無償・有償・個別専門家派遣・その他)

: 無償 57 年度 18 億円 昭和 58 年 25 億円  
計 43 億円 (無償機材供与 4.3 億円を含む)  
昭和 60 年 3 月完成

13. 評価:

14. 調査団:
- 1) プロファイ 60. 3. 7 ~ 60. 3. 20
  - 2) 事前調査 60. 7. 21 ~ 60. 7. 27
  - 3) 実施協議 61. 3. 14 ~ 61. 3. 20

15. 国内支援:

16. 国内委員会: 日本側協力機関からの推薦者により設置する予定

## 8. 第三国（国際機関を含む）の協力概要

先に述べたように当該プロジェクトにカナダ国との共同協力の話題が3月にあったが、現在では消えている。また調査期間中、保健省の次官 Dr. Fazal-ur-Rehman Khan と面談中に1987年からアジア開発銀行の協力で前述のような類似プロジェクトが行われる計画を聞いた。

その他、パキスタン国は保健関係だけでも資料6のような協力を受けている。主な関連プロジェクトをピックアップしてその具体的協力分野および内容を記載した資料を入手したので添付する（資料7～10）。特にパンジャブ州のラホールに、当該プロジェクトの同型の Post-Graduate College of Nursing が次年度から動き出すことが注目される。

SECTOR: HEALTH

APPROVED PROJECTS.

Training Courses on Nutrition Education	FAO
Punjab Medical College, Faisalabad	Japan
College of Nursing and Paramedical Institute Phase II	Japan
Improvement of Equipment for the National Institute of Cardiology	Japan
Malaria Control II	U.S.A
Primary Health Care	U.S.A
Mid Wife Training	Canada
Accelerated Programme of Immunization	Canada
Rabies Vaccine Lab	Canada
API Communications	Canada
Health and Population	Asian Dev Bank
Second Health and Population	Asian Dev Bank
Supplementary Feeding	WFP
Training School for Orthopedic Technicians	UNDP
Maintenance and Repair of Medical Equipment in Sind	UNDP
Technical Assistance for WFP-Assisted Nutrition Education	UNICEF
Slum Improvement	UNICEF
Training of Traditional Birth Attendants	UNICEF
Sanitation Activities	UNICEF
Basic Health Services	UNICEF
Radioimmunoassay	IAEA
Nuclear Cardiology Services	IAEA

PIPELINE PROJECTS.

Accelerated Programme of Immunization	Canada
Health and Population III	Asian Dev Bank
Rural Health NWFP	United Kingdom
Rural Health Baluchistan	United Kingdom
Vaccine Production	Netherlands

Name of the Project .. Establishment of Allama Iqbal Medical College Complex.  
(Million Rupees)

Local	Cost		Year of Commencement	Year of Completion	Status
	Foreign Exchange	Total			
297.252	149.123	446.375	1982-83	1987-88	Approved.

Purpose, Scope and Justification : The proposed scheme for the establishment of Allama Iqbal Medical College complex at 102 acres of land near Punjab University new Campus, Lahore envisages to provide the following facilities :—

- (i) Medical College for 272 students, per year.
- (ii) Nursing schools for 65 students per year.
- (iii) Hostel accommodation for 1010 medical students.
- (iv) Hostel accommodation for 260 nursing students and 202 staff nurses.
- (v) Hostel for 100 internees.
- (vi) 1000 bedded hospital.
- (vii) Residential accommodation for staff in Grades 1—20 ranging from 28.57 to 50 of the staff.

Name of the Project .. Establishment of Rawalpindi Medical College Complex, Rawalpindi.  
(Million Rupees)

Local	Cost		Year of Commencement	Year of Completion	Status
	Foreign Exchange	Total			
309.67	142.400	452.367	1982-83	1987-88	Approved.

Purpose, Scope and Justification : The scheme envisages to provide the following facilities in the college :

1. Construction of a 700 bedded Teaching Hospital. out patient, diagnostic and support services are being planned for 1930 beds including the existing beds of the adjacent Holy Family Hospital.
2. Construction of Teaching Block for clinical students.
3. Nursing school.
4. Residences for 180 College and Hospital Staff.
5. Hostels for boys and girls.
6. College Auditorium and improvement of existing library.

Name of the Project .. Institute of Neuro Sciences, Islamabad.

(Million Rupees)

Local	Cost		Year of Commencement	Year of Completion	Status
	Foreign Exchange	Total			
109	47	156	1986-87	1989-90	Un-approved.

Purpose, Scope and Justification .. Facilities for prevention, early diagnosis, treatment and rehabilitation of neurological disorders are grossly inadequate in the country. In order to take care of this neglected field, 200-bedded hospital is proposed to be built to provide treatment facilities apart from research and teaching. The proposed centre will have the departments of psychiatry, neuro-surgery, neurology, drug addiction and forensic medicine. The institute will be located within the premises of the existing 625-bedded general hospital to share the common services.

Name of the Project .. Gynaecological and Obstetrics Department, Islamabad Hospital Complex, Islamabad.

(Million Rupees)

Local	Cost		Year of Commencement	Year of Completion	Status
	Foreign Exchange	Total			
80	18	98	1986-87	1989-90	Un-approved.

Purpose, Scope and Justification .. The capital city, Islamabad lacks organized facilities in the field of Gynec and Obstetrics. The execution of proposed project will create 200-bedded department to provide relief to the female population of Islamabad and surrounding areas in MCH, maternity and gynaecological problems. This department will be complementary to 575-bedded Islamabad hospital and will share its common facilities. The long-term objectives include reduction of infant and maternal mortality in the federal capital area.

Name of the Project : Equipment for Rural Health Centres and Hospital in Sind and Capital Hospital at Islamabad.

(Million Rupees)

Local	Cost		Year of Commencement	Year of Completion	Status
	Foreign Exchange	Total			
55	22	77	1982-83	1985-86	Approved

**Purpose, Scope and Justification.** In order to provide better health facilities to the rural population, Rural Health Centres are established in the rural areas of Sind. Islamabad the scheme envisages to provide necessary equipment to cope with the requirement of rural Health Centres.

The schemes also envisages improvement of existing teaching facilities in teaching hospital and providing better treatment facilities to the patients. The proposed operation theatres will meet the requirement of six surgical units.

*Equipment for Taluka Hospital.*—Facilities at some of the hospitals are inadequate to cope with the requirements of Taluka Hospitals due to increase in population. The scheme purposes to improve and expand facilities at Taluka Hospitals. It envisages to install equipment and provide modern equipment where necessary.

*Equipment for operation theatres in Sind.*—To improved the existing facilities in the Teaching Hospitals and provide better treatment facilities to the patients, modern equipment will be provided to these Hospitals. The Scheme also proposes to improve and expand facilities at Taluka Hospitals.

**Capital Hospital, Islamabad**

*Dermatology Department.*—Over eleven thousand patients are seen annually in Capital Hospital in the Skin Department. It is felt that a modern well-equipped Department be made available to the CDA employees in particular and the public in general. This will enable the doctors to impart effective therapy in a quick and modern way. It may be pointed out that Islamabad does not offer any modern Dermatological facilities worth the name at present. With the addition of this unit. Capital Hospital CDA will be in a better position to render modern therapy to the residents of Islamabad.

*Physiotherapy Department.*—Physiotherapy is need of the day. No hospital can function properly these days without this facility as patients with both surgical as well as medical illnesses require this supportive therapy.



Name of the Project ... .. Establishment of Post-Graduate College of Nursing in the Punjab at Lahore.

(Million Rupees)

Local	Cost		Year of Commencement	Year of Completion	Status
	Foreign Exchange	Total			
.01	<del>10.15</del>	10.16	1985-86	1987-88	Approved

Purpose, Scope and Justification. It is proposed to establish the Postgraduate College of Nursing at Lahore. It will provide facilities for training to the Nurses in the ward administration and Tutor Sisters Course at the rate of 20 students for each course each year. Moreover, the Nurses will be imparted training in the specialities of Tuberculosis Nursing, Paediatric Nursing, Ophthalmic Nursing, Cardiac Nursing, Psychiatry Nursing, Anaesthesia, Intensive Care and Operation Theatre. Ten seats will be reserved in the aforesaid college for each discipline.

## 9. 相手国のプロジェクトの実施体制

本プロジェクトの実施体制を、国の行政機構のうえから整理すると以下のとおりとなる。

- パ国政府として本プロジェクトの準備及び実施段階で全責任を負う機関……保健・特別教育・社会福祉省 (Ministry of Health, Special Education and Social Welfare) [以下本書では「保健省」と略す]
- パ国政府の方針のもとに、人事、予算等プロジェクト運営の全般に関する責任を負う機関……パキスタン医科学研究庁 (Pakistan Institute of Medical Sciences = PIMS) [以下本書では「PIMS」と略す]
- 医科学研究庁の指導・監督のもとに、プロジェクトの実施に関する責任を負う……パキスタン、イスラマバード看護大学、医療技術者養成学校 [以下「イスラマバード看護大学」とする] (以上図-1参照)

### 9-1 パキスタン医科学研究庁 (PIMS)

医科学研究庁 (PIMS) は、従来イスラマバード・ホスピタル・コンプレックス (IHC) の名称で呼ばれており、保健省保健局長 (Director General of Health) の管理のもとに置かれていたが、1986年10月16日付保健省省令 (10月22日官報で公告) により、独立した政府機関としての機能と権限を与えられた。

本医科学研究庁 (PIMS) は、イスラマバード、およびラワルピンジ地域周辺の医療需要 (総人口110万人) に対応すべく計画されたものであり、最終的には、572床の総合病院220床の小児病院、200床の産婦人科病院、4,000人の外来患者の診療が可能な外来・救急病院等を含む病院施設、及び核医学研究所等の研究所施設、医科大学院、看護大学・医療技術者養成学校等の教育施設、その他職員の住居施設等によって構成されることが計画されている総合医療施設群である。

前述した1986年10月16日省令により定められた諸事項は以下のとおりである。

- ① パキスタン医科学研究庁 (PIMS) は、その効率的な機能が果されるようパキスタン国政府の独立組織としての性格を有する機関として設立する。(保健省の直接的な管理から外れる)
- ② パキスタン国政府が設立する当該機関は保健省省令公布後、可急的速やかに、“パキスタン医科学研究庁 (PIMS)” と呼称されるものとする。
- ③ PIMSの本部は、イスラマバードに置かれる。
- ④ PIMS設立目的は以下のとおり。
  - a PIMS運営審議会により定められる医学関連施設を設置すること。

- b 国の他の機関のレファレルセンターとしての機能を持つとともに、国際的標準レベルの専門医療サービスを提供すること。
- c 国内の他の類似機関との連携をとりつつ、医学研究と教育を行うこと。
- d 医師、病院管理者、看護婦、その他の医療従事者に関する各種訓練部門において、実務研修施設を用意し、彼らに対し資格証明及び免許状を付与すること。
- e WHO 及び保健医療関連の他の国内、国際機関のために中心的な役割を果たすこと。
- f 卒後の医師、病院管理者、看護婦の為に卒後研修コースを設け、実施すること。
- g 庁内の各組織・部門、病院（棟）、機構の各々の活用と他の機関との連携に関する一定の手続きをまとめること。
- h プライマリヘルスケア従事者の訓練等と同様に、保健計画と臨床部門についての将来の研究活動の中心的役割を果たすこと。
- i 専門領域に必要とされる医薬品を準備し、かつ科学的院内薬局のモデルを設置すること。

⑤ 運営審議会の役割

- a PIMS の運営方針を定め経営全般について監督する。
- b PIMS の業務規定、手続等を定める。
- c PIMS 内の各部門、組織の編成、分割等を定める。

⑥ 運営審議会の構成

- 会 長 保健大臣
- 副会長 保健省次官
- 委 員 首相任命の国会議員 1 名  
首相任命の国家評議会議員 1 名  
会計検査院長  
財務省次官  
保健省保健局長  
陸軍軍医大將  
パ国医学研究評議会会長  
保健研究所長  
PIMS 総長（運営審議会事務局長）  
保健省栄養改善部部長  
その他会長の推せんにより首相が任命する者

⑦ PIMS 総長

PIMS 総長はパ国政府によって任命され、以下の任務を遂行する。

- a 登記事項及び公的印章，署名の施行と管理に関すること。
- b PIMSの運営を指揮すること。
- c PIMSの年次報告を作成し，運営審議会に提出すること。
- d 概算予算要求及び補正予算を作成すること。
- e 運営審議会の開催の通知を発し，その審議事項の記録をまとめる
- f 運営審議会の決議を実施に移すため作業部会等の手順を踏むこと。
- g 運営審議会に代って，契約を締結し署名すること。
- h その他運営審議会によって課せられた機能と義務を達成すること。

⑧ PIMSの基金

基金は，中央及び地方政府の負担金，寄付，投資等による収入，運営審議会により承認された種類の受取金，政府により認められた国際機関及び外国からの贈与，国内あるいは国際機関からの借入金をもって充てる。

⑨ 予 算

PIMSは，運営審議会の承認のもとに，予算案を政府に提出する。

⑩ 代 表 権

運営審議会は，書面による命令をもって，あるいはPIMS総長，委員会，あるいは審議会の特定された要員，事務局員を通じ，省令に基づく審議会の権限を行使することが出来る。

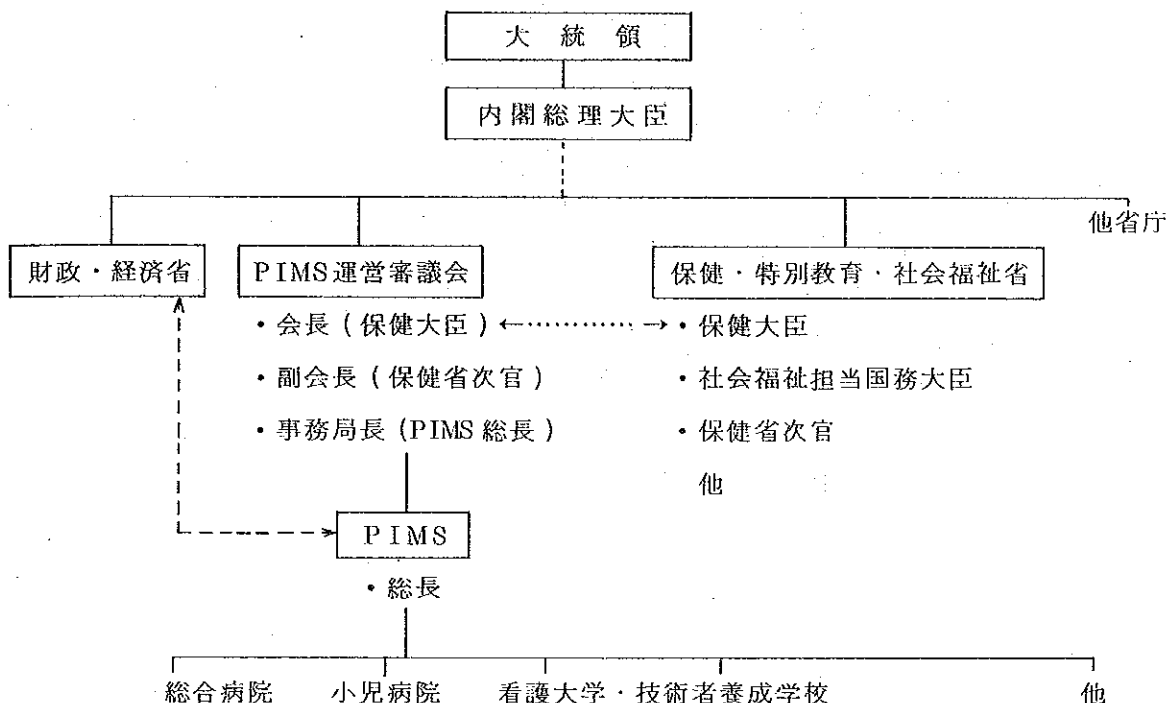
⑪ 国際機関との協力

PIMSは，パ国政府の事前の承認を得た上，外国の機関，及び国際機関が，一方の相手となって実施される計画又は契約に基づき，あるいは，当該省令の施行前段に締結された契約に基づき協力関係を持つことが出来る。

⑫ パ国政府の指導・監督

政府は，省令の定める目的が遂行されるために，必要に応じて適宜，運営審議会に対し，指令および指導を行う。

図1 パキスタン・医科学研究庁 (PIMS) 関係機構図



9-2 パキスタン・イスラマバード看護大学 (College of Nursing, Islamabad = CN)

(1) 名称上の区分

これまで、本校技術協力のバ側実施機関の名称としては、便宜的に「看護婦・医療技術者養成学校」(College of Nursing and Paramedical Institute)を用いてきたが、前述のPIMSの組織上は、College of Nursing (看護大学)とParamedical Institute (医療技術者養成学校)は、各々個有の学校長並びに事務部門を有し、かつ予算等管理面も区分され、別組織となることが、今回のバ側との協議を通じて明らかになった。

従って、今後は、本校の名称として「イスラマバード看護大学」(日本名)を用いることが望ましい。また英語名では、すでにミニッツにおいても、“College of Nursing, Islamabad”が用いられている。

(2) 看護大学の組織と定員

イスラマバード看護大学の予算上の定員は校長及び教育部門、管理部門を含めて38人であるが、今回、PIMS側が調査団に提示しミニッツに盛り込んだ職員数は、医療技術者養成学校を兼務する教員、含めて総員44人であり、その内訳は表-4のとおり。

表-4

職 名	人 数
校 長	1
上級教員(助教授)	4
教 室	8(13)
司 書	1
司 書 補	1
事 務 長	1
タイピスト	1
会 計 士 補	1
A V 技 師	1
技 師	2
技 師 補	2
上級クラーク	2
出 納 員	1
調 達 係	1
下 級 事 務 員	2
演習室助手	4
その他掃除係等	11(31)
計	44人

上記44人のスタッフのうち、校長、上級教員、教員までの13人は、バ国政府採用職員であり、官報等にその人事事項が掲載されるが、表-4の司書以下の31人については、PIMS採用の職員である。

看護大学及び、医療技術者養成学校の施設に対して、各々組織の最高責任者として、校長が別々に発令され、また事務長等管理部門のスタッフも区分されるが、校長以外の教育スタッフについては、担当教育分野で共通する部門が多く、人事効率も良いことから医療技術養成学校との兼務発令がなされる計画である。

なお、今次調査団が、バ側に対し、両校が同一のキャンパスの中に有り、かつ図書室、講堂、その他施設を共用すること、さらに基本問題として、施設全般の維持管理は、建物の構造上、個別に実施することは不可能であることから、看護大学と、医療技術者養成校を統括する組織体制を設置する計画はないかと資したのに対し、バ側は、両校は、施設の一部は共用するも基本的には別組織であり教育事業は言うまでもなく、人事、予算、管理運営も別個に実施する考えである旨述べた。

なお、現在までのところ、当該施設は、建設段階であったため、バ国内では、“The

Project for Nursing College and Paramedical Institute”と一体の事業として捉えられ、責任者として、Project Director ( Dr. M.Afzal Naubahar ) が任命されていたが、このポストは常設ではないと表明した。

ただし、パ側としても、日本側調査団指摘した点については、同様の懸念をしており、同校の開校後、運営状況を見て、あるいは若干の組織変更がなされる可能性はある。(図-2参照)

(3) 組織及び職員に関して、今後フォローすべき事項

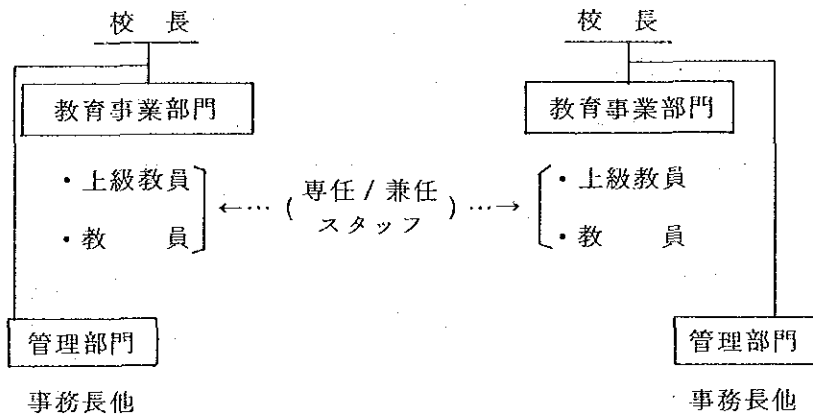
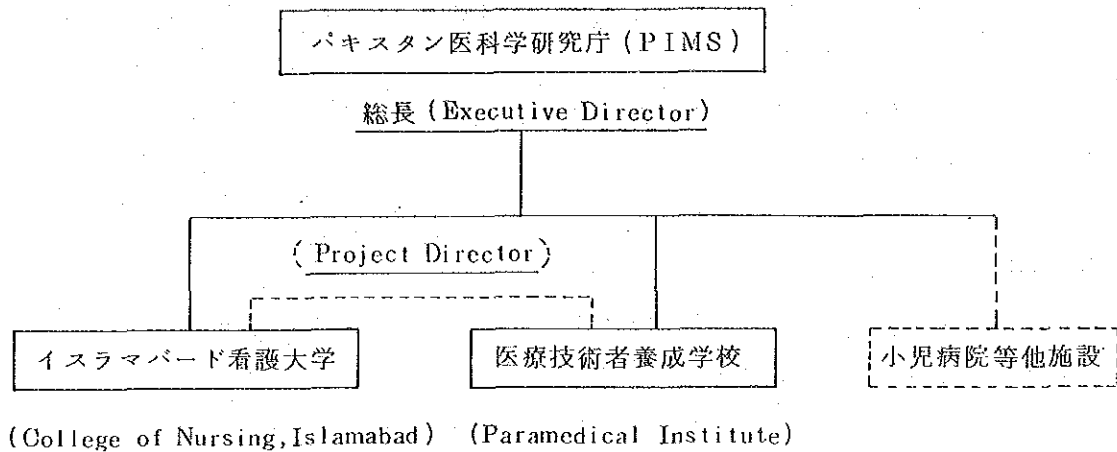
本プロジェクト協力の実施を見極める上で先方実施機関である看護大学の要員配置状況最も重要な課題のひとつであるとの認識から今次調査団は、先方に対し、本件について繰返し、その明確な回答を求めた。その結果、ミニッツ付属文書として、パ側は個人名入りの職員名簿を添付することに同意したが、以下の点は、R/D締結までに、充分フォローすべき事項である。

- ① 校長の人選の人事発令(文書による正式通報入手)
- ② 教員の人事発令の確認(証拠書類)
- ③ 医療技術者養成学校との教員の兼務発令の詳細(誰が、どの分野で、どのように)

また、看護大学と医療技術者養成校双方に関連する事項として、

- ④ 現在まで、日本側のカウンターパートとして、本プロジェクトの準備段階をとり仕切ってきた。Project Director ( Dr. Naubahar ) のポストの取扱い。

図-2 PIMS 内での看護大学の組織



※ 施設建築段階から現在まで、両校の総括責任者である Project Director が配置されている (図の midpoint 線の部分)

### 9-3 予 算

イスラマバード看護大学、医療技術者養成学校 (CNPI) は、予算要求、及び交付の手続上は、1986/1987 会計年度 (1986/7 ~ 1987/6) にあつては、PIMS 内の一組織として位置付けられており、看護大学個有の予算を把握することは現時点では不可能である。

しかしながら、CNPI の建設の全施設が完工し、施行業者からパ側医科学研究庁 (PIMS) に引渡されたのは 1986 年 10 月であり、これまでは専ら施設の建設段階の管理調整業務のみがパ側によってなされてきたことを考えれば、1986/87 会計年度において、看護大学 (CN) と医療技術者養成学校 (PI) の予算区分がなされていないことは納得出来る。

CNPI 全体の 1986/87 会計年度予算 (年度当初) は、表-5 のとおりであるが、10 月に、施設のうち未完了であつた寄宿舎がパ側に引渡され、維持・管理責任が移つたことから、



新たなる費用が必要となり、表-6のとおり、補正予算(案)が組まれ、財政・経済省に提出されている。

収入予算は、社会整備費のうち保健医療費より交付されるが、1986/87会計年度では、総合病院等費用の中に、本校の予算が計上されている。おそらくいずれ、社会整備費の中項目としてPIMS独自の予算項目が設けられるものと考えられる。

収入の部は、年度当初と補正予算(案)を合算すると以下の額となる。

年度当初承認予算	2,151,000
補正予算(案)	347,904
<hr/>	
	Rs 2,498,904

( 邦貨換算約 2,300 万円 )

支出は、全体額の約50%が人件費によって占められており、以下諸経費、物品購入費、保守管理費と続くが、本予算は、あくまで開校前のいわば、開校準備費的なものであり、本来の学校運営予算とは言えない。

ただし、本予算には、開校のための、最少限の教員及び管理スタッフの人件費は含まれているので、1987年上半期の開校は可能であると考えられる。

支出予算の当初及び補正の合計は収入予算と同額である。

なお、バ側としては、開校を1987年の1~2月、教育コースの開始を1987年3月以前にしたいと日本側に約し、ミニッツにも記録することに合意したが、教育事業が本格的に実施に移される1987/1988会計年度予算については現在作成中であり、調査団としては、プロジェクト実施に必要なカウンターバジェットの確保について強調した。

表-5

イスラマバード看護大学, 医療技術者養成学校

1986/1987 予算

1986. 2. 10 承認

財政・経済省

(単 Rupees = Rs)

	予 算 費 目	金 額	備 考
収 入 の 部	社会整備費	2,151,000	
	保健医療費	2,151,000	
	総合病院等費用	2,151,000	
支 出 の 部	看護大学, 医療技術養成校費	2,151,000	
	1. 人件庁費	1,215,000	
	(1) 給料	786,000	
	(2) 庁費	424,000	住宅借上
	(3) その他	5,000	超過勤務
	2. 物品購入費	150,000	機器及び事務備品
	3. 保守, 管理費	125,000	修理, 据付, 運搬等費用
	4. 諸経費	651,000	
	(1) 交通費, 旅費	31,000	
	(2) 通信費	55,000	
	(3) 光熱水費	50,000	
	(4) 事務用品費	45,000	
	(5) 印刷製本費	50,000	
	(6) 資料購入費	150,000	新聞, 学会誌
	(7) 被服, 雑費	20,000	
(8) その他	250,000		
5. 社会活動費	10,000		

表-6

イスラマバード看護大学, 医療技術者養成学校 (CNPI)

1986. 11/1987. 6 補正予算申請

1986. 10. 19

プロジェクトディレクター

CNPI

(単位 Rupees = Rs)

予 算 費 目	金 額	備 考
社会整備費	347,904	
・保健医療費	212,000	
1. 総合病院等費用	16,000	
2. CNPI 設立費	195,000	
・CNPI 維持費	135,904	
看護大学, 医療技術者養成校費	347,904	
1. 人件庁費		
(1) 給料	212,000	
(2) 庁費	135,904	

## 9-4 カウンターパートの配置計画

当該プロジェクトの現時点でのカウンターパートは、Project Director の Dr. M. A. Naubahar であるが、学校長が1月中に決定するようなので、その時点では学校長がカウンターパートになると思われる。

なお、学校運営に関しては、ミニッツに2種の委員会メンバーをパキスタン側、日本側と明記したので少なくともパキスタン側のメンバーはすべてカウンターパートと考えてゆくべきだろう。

ただし、専門コース別のカウンターパートは、講師がすべて決定したところで Project Director と協議の上決められるべきで、現時点では不明。

## 10. プロジェクト協力の基本計画

### 10-1 協力の方針

本プロジェクトは、パキスタン回教共和国における専門看護婦を育成する卒後教育に必要な教育方法を指導・援助することを目的とする。

援助の対象は、パ側が開設する予定の専門看護婦コースのうち、「小児看護」「手術室看護」「ICU看護」「精神科看護」「公衆衛生看護」の5コースとし、「麻酔看護」は除外する。

なおパ側は、看護教員コースもあわせて開設する計画をもっているが、その開設時期は未定である。看護教員コースが開設された場合には、現存するKarachiの教員養成校との関係を勘案し、必要によっては協力の対象に含めることが考えられるものの、現段階では、前述した5つ専門看護婦コースに限定すべきであろう。(本項目末尾協力計画概要参照)

### 10-2 協力の範囲及び内容

- 1) パ側の実情に合わせ、以下の専門看護婦のためのカリキュラムを開発する。
  - a) 小児看護
  - b) 手術室看護
  - c) NICU看護
  - d) 精神科看護
  - e) 公衆衛生看護
- 2) カリキュラムに合った教育方法を講義、演習、実習の授業形態に即して開発する。
- 3) カリキュラムに合った以下の教材を開発する。
  - a) テキスト
  - b) 視聴覚教材—ビデオ、スライド、TPなど

### 10-3 協力部門別計画

協力は看護学校長に対する教育管理協力と、開講予定の麻酔科看護と基礎看護教育養成コースを除く専門看護領域に対し、3年間の協力計画が企てられた。

看護教育管理協力、専門看護領域協力共にCNPIの開講後1987年中旬時期において実施協議、議事録(R/D)作成時に、より詳細な計画が立てられることにならうが試案として、R/D時に、長期専門家派遣要請書、研修員要請書、資機材要請書を作成し、それ等がパ国側より日本側に受理されて、長期専門家は派遣される計画である。

教育管理および専門看護援助は一体のものであることから有機的に協力実施する必要性がある。

1年次は現状把握にあたり、2年次に協力実施し、協力計画をより具体的に、3年次後半は、その評価というように進められると考えられる。

#### 10-4 専門家派遣計画

協力期間は3年間ということから、長期専門家は原則として交代なく協力を継続するよう計画した。

長期派遣は、リーダーとしてプロジェクト活動全体の管理を担当する者1名。

各領域のスペシャリストは3名であるが、その領域は協力の領域の中に得られる人材の専門によってカバーされる、その他カバーできないあるいは、より専門度の高いものが必要である場合、各年度各3名の短期専門家を派遣する。

調整員は専門家が全員女性となることからパ国において男性の方が、より対外的に活動しやすいという条件等で男性の派遣が好ましい。派遣の時期は専門家より早期に行う。

#### 10-5 研修員受入れ計画

研修員は学校の教職員が確定していない段階であるため、受入れは大まかに計画した。

初年度に、学校長に対して数カ月間の研修を受け入れる。

専門領域は初年度2名、2年次、3年次は各3名として1年以内の研修を計画した。

研修受入れ先は主に厚生省、看護研修研究センターで行ない必要に応じて適切な施設の計画をたてる。

3年間を通じて計9名の予定である。

#### 10-6 資機材供与計画

学校資機材のパ国の要請と調査に基づいた図書室の図書（定期刊行物、書籍等）が不足しておりその供与（第1部巻末資料Ⅱ）が望まれる。また無償供与された機材の、アタッチメント類、教材作成のための印刷機器、情報整理のための器機（ワープロ）も必要である。

カリキュラムの展開方法により教材が異なるため、大まかに考えても、また具体的カリキュラムの展開計画にそって演習展開のための教材などに不足が考えられるため、日本の看護学校設備規準に照らしながら機材供与により対応するよう計画する。

パキスタン回教共和国看護教育プロジェクト

協力計画の概要(目的, 活動目標, 年次別計画)

1. プロジェクトの目的

パキスタン国の医療サービスに適合する専門看護婦を養成するため, 看護教育の技法及び必要な知識の向上を図ることに寄与する。

Objectives of the PROJECT.

The PROJECT aims at contributing to upgrading the educational technique and necessary knowledge to carry out the post graduate nursing courses bringing up the advanced nurses adequate to Pakistani medical services need.

2. 技術移転の対象となる内容・事項

- 1) イスラマバード看護大学の学校運営・管理について
- 2) 専門看護コースに係るカリキュラム, 教育技法について
- 3) 日・パ双方が必要であると合意した事項について

Content of technical cooperation.

The technical transfer regarding the matters mentioned below will be carried out under the PROJECT.

- 1) Management and administration of the College of Nursing.
- 2) Curriculum, educational technique and materials for post-graduate nursing courses.
- 3) Other matters mutually agreed upon as necessary.

3. 協力期間

本プロジェクトの協力期間は, 看護大学において, 卒後看護コースが開始されることを前提として, 1987年の然るべき時より3年間とする。

Term of the PROJECT.

The duration of the technical cooperation under the PROJECT is expected 3 Years from sometime in 1987 on the condition that Pakistani side will start the post-graduate nursing courses in the College of Nursing.

4. 技術移転の目標(カリキュラム, 教育技法)

(1) パ側の実情に合わせた専門看護カリキュラム開発

- ① 小児看護      ② 手術室看護      ③ ICU看護      ④ 精神科看護
- ⑤ 公衆衛生看護

(2) カリキュラムに合った教育技法の開発

- ① 講義      ② 演習      ③ 実習

(3) カリキュラムに合った教材開発

① テキスト

② 視聴覚教材（ビデオ，スライド，TP等）

5. 年次計画

第一年度	1. 現行カリキュラムの評価と指導計画立案 2. 教育技法の評価と開発指導計画立案 ① 講義法 ② 演習法 ③ 実習法 3. 教材開発の評価と開発技術計画立案
第二年度	1. カリキュラム開発 2. 教育技法指導 3. 教材開発指導
第三年度	1. 開発カリキュラムの評価 2. 教育技法の評価 3. 開発教材の評価

(注) 看護大学の運営・管理については，バ側学校管理方法を充分 study した後，プロジェクトスタート後，目標及び年次計画をたてる。

## 11. 協力実施にあたっての留意事項等

### 1) カリキュラム開発に関して

パ側が作成した専門看護婦のためのカリキュラムは医学中心の内容で構築されている。したがって、カリキュラムの開発にあたっては、まず看護に関する内容を強化する方向で検討すべきである。

またパ国における看護基礎教育の実情から考えて、専門看護婦の基盤となる基礎的能力が育成されているかどうか疑問である。したがってカリキュラムの開発にあたっては、各専門コースに入学してきた学生の看護実践能力を査定した上で、欠落あるいは不十分な部分を見極める教育内容を精選する様、特に留意すべきである。

### 2) 臨床実習上の確保と整備について

専門看護婦の教育における臨床実習が極めて重要であることはいまでもない。

ところが現段階においては、僅かに小児看護コースの実習病院（日本の援助により建設された小児病院）が確保されたにすぎない。

ICU 看護と手術室看護コースの実習病院として考えられる General Hospital については、設備的にも人的にも実習病院の条件を満たしていない状況である。また精神科看護と公衆衛生看護コースについても特定の実習病院あるいは保健所が決まっていない段階である。

以上の実情から考え、各専門看護コースの臨床（臨地）実習場を早急に確保し、その内容を整備・充実する様、パ側に積極的に働きかけることが必要である。

### 3) 専門家の派遣について

長期専門家は、小児看護、手術室看護、ICU 看護、精神科看護、公衆衛生看護の何れかの専門に通じ、あわせて、何等かの形で看護教育の経験を有する人が得られれば理想である。特にチームリーダーは、この両側面の条件をもつ人を派遣することが望ましい。

また協力の専門領域が5コースに及ぶため、長期専門家の専門領域以外の分野について、短期専門家を派遣し、内容の強化が図れる様、支援体制を整えることが大切である。

### 4) 調整員の派遣に関して

プロジェクトを迅速に開始しかつ円滑に進行するために、JICAの事情に通じた調整員が是非必要である。特に限られた期間でプロジェクトの目標を達成するためには、周到な準備をしなければならないので、専門家に先立ち調整員を派遣する様、配慮されることを切望する。

またイスラムバードの交通事情からみて、交通手段としての自動車が必要であるため、調整員赴任と同時に、業務用自動車が配車されるよう考慮されたい。



当該プロジェクトは、パキスタン国では初の専門看護婦を育成することを目的としていることから国家的期待が大きいものの相手国の指導者に経験がないことが最大の問題である。

従って、プロジェクト推進には日本側の柔軟なしかも強力な支援体制づくりが必要と思われる。

例えば

- 1) 各専門コースのカリキュラムや教材開発のために国内委員会で具体的開発案を作成し、長期専門家にパキスタン側のカウンターパートと協議する素材作りをする必要がある。また、短期の専門看護婦を派遣してセミナー、技術指導を行う必要がある。この場合、専門コース毎に同一人物が一年に1回（2か月位）単位で2～3年継続し進捗のチェック、評価などを行うことが望ましい。
- 2) 研修員の受け入れは、6か月単位くらいで少なくとも協力コースの教師および実習施設の婦長クラスを招へいた方がよい。
- 3) 基礎看護教育が on the job training で行われているので、理論構築が乏しいと考えられる。よって理論のウエイトを重視するとともに基礎技術を正しく指導できるような教育法が大切。
- 4) 専門別の教材作成は必須であり、当初は欧米の英文教材を参考にするか、日本の指導書を直接ウルドゥ語に訳したものを作り、漸次パキスタン独自の執筆者開発をしてゆくのが良策。  
また視聴覚教材についても同様のことがいえるので、特に技術指導のためのマニュアル的なビデオのソフト作りを系統的に進めてゆくことが大切。
- 5) 実習病院となる小児病院や総合病院の指導者不足が予想できるし、特に総合病院はパキスタン独自の建設によることから機器材が不備であるため教室実習に重点をおくことが望ましい。また専門家は病院での臨床実習指導も行いつつ、中堅技術者養成対策費で広く一般看護婦（実習病院を中心とした）を対象にセミナーや研修会を実施して、理論と技術の開発を広く行ってゆくことが望ましい。
- 6) 学校運営については、Joint Committee を少なくとも1か月に1回位の頻度で開催し決定事項を前進させてゆく処理機関として活用しないと仕事が遅延する。また、この機を利用して医師、看護婦の意識変革を図ってゆくことも肝要。
- 7) 学生が労働力として利用されることを防ぐため、就学規則を早期に作り徹底してゆく努力をするとともに、学生には研究素材を与えるなど教育環境作りを行ってゆくことも必要。
- 8) 卒後の身分保証（昇給、昇格など）をはかるための法的措置を構じるよう働きかける。  
このことが入学者のリクルートにもつながるから。

## 12. 提 言

学校運営の直接責任者が未決定の今、具体的な計画は、日本側の独壇的要素が多い。

しかし、PIMSの長が強いパワーを持っているようなので、Principal, College of Nursingとタテラインの人間関係がスムーズに行けば前進するプロジェクトとなろう。

しかし、長い間の看護婦の社会的地位の低さをどうレベルアップさせてゆくかは大きな問題であり、専門家の政治的手腕も必要となってくる。

パキスタン国のイスラム環境を理解して、単に専門看護技術の移転にとどまらず、伝統的な地域住民の生活にとけ込んだ草の根的活動も大切と思われる。

今、女性の地位拡張も国家開発計画の柱となっている時であり、機は熟しつつあるようにも思う。

すでにPakistan Nursing CouncilやNursing Advisor, MOHなどの組織、人物は優秀な素質があると判断できるし、彼らをうまくリクルートしてゆけば当該プロジェクトも前進できる。問題は日本側の専門家リクルートであるが、聖マリア病院を中心とした支援機関もあり、小児病院も動き出しているので国内的にも国外的にも両プロジェクトが連けいを取りながら進めてゆくことが大切である。

このプロジェクトでは、日本側が何をどう変え教育したか、でなく、パキスタン側の自立をどう促したか、が評価の基準となってよいのでは、と考えている。

### 1) パ側の実施体制について

本プロジェクトの開始に先行し、以下の事項（の進捗状況）を確認すること。

- a) College of Nursingの開校式の実施状況
- b) 看護専門コースの開講状況  
（開講コース名と開講日、学生数など）
- c) 看護学校長の選定状況  
（氏名、背景など）
- d) 運営委員会の発足状況とそのメンバー

### 2) 国内委員会について

本プロジェクトを円滑に進捗させ、プロジェクトを成功させるために、国内委員会を強化することが望ましい。

委員には、厚生省、国際看護交流協会関係のメンバーに加え、長期専門家の経験者や何等らの形でパ国に関係する施設などから広く人材を選定する様に配慮されたい。

## 第1部 参考文献

1. The Sixth Five Year Plan 1983-38, Planning Commission, Government of Pakistan
2. Basic Health Unit and Rural Health Centres in Rural Pakistan, Government of Pakistan, Planning and Development Div. Islamabad.
3. Projects for Foreign Assistance (1983-88), Government of Pakistan, Ministry of Education, Islamabad, November 1983.
4. Project of Donors, 1986.
5. Pakistan Statistical Year Book, Jan. 1986.
6. Portfolio of Aid-Worthy Projects on The Pakistan Consortium.
7. Pakistan Basic Facts 1983-84, 22nd edition, Government of Pakistan, Economic Adviser's wing, Islamabad.
8. 1985-86 Economic Survey, Government of Pakistan, Economic Adviser's wing, Islamabad.
9. Federal Government Public Sector Development Programme 1986-87, Government of Pakistan, Planning Commission, May 1986.
10. Government of Pakistan ATLAS of HEALTH FACILITIES, Health Section and Development Div., Islamabad.

